

第七回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

高校生以下の部 作品集

高校生以下の部 入賞・入選作品

高校生以下の部 投稿者内訳

学校名	投稿者数
宮城県クラーク記念国際高等学校仙台キャンパス	1人
群馬県高崎商科大学附属高等学校	6人
利根沼田学校組合立利根商業高等学校	2人
群馬県立沼田高校	220人
太田市立宝泉中学校	189人
群馬県みなかみ町立みなかみ中学校	84人
埼玉県深谷市立藤沢小学校	1人
東京都普連土学園高等学校	1人
東京学館新潟高等学校	1人
神奈川県立光陵高等学校	9人
塩尻市立広陵中学校	15人
塩尻市立塩尻東小学校	11人
愛知県名古屋高等学校	1人
三重県高田中学校	1人
山口県山口大学教育学部付属光中学校	1人
山口県光市立光井中学校	5人
山口県光市立浅江小学校	1人
山口県光市立島田小学校	20人
種類別内訳 題詠 400首 自由題 807首 合計 1,207首	569人

【高校生以下の部・題詠「橋」】

最優秀賞 一首

お駄賃が緑の募金箱に落ち赤かった橋また赤くなる

群馬県高崎商科大学附属高等学校

1年

福

島

環

優秀賞

二首

橋だつて川下りとかしたくつて動きたいだろうにそれなのに僕は

神奈川県立光陵高等学校

1年

山本

未生

橋わたり 水面にうつるは 君のかけ 幻想みたい キラキラ光る

群馬県太田市立宝泉中学校

1年

吉川

奈那

選者賞・伊藤一彦選

二首

虹なんて偽りの橋に過ぎなくて未だに誰かを迷子にさせて

神奈川県立光陵高等学校

1年

洲崎

大知

水が増え川に隠れる沈下橋あるがままの水受け入れている

山口県光市立光井中学校

3年

深田

和志

選者賞・小島なお選

二首

もうスマホがないと夢さえ追えなくて生きてくための橋の充電

神奈川県立光陵高等学校

1年

鳥野

空音

夢のなかで吊り橋をずっと揺らす君よそんな君に恋はやらない

群馬県高崎商科大学附属高等学校

2年

高崎

明音

ふたりきり怖い怖いと言いながら進める足を止めぬ吊り橋

利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年

飯塚 ひなの

なぞの橋車も人も通れない通ったのは君だけだった

長野県塩尻市立広陵中学校 3年

安江 憲伸

ありがとう たくさん使う じょうぶで 安心できる 月夜野大橋

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年

井田 仙太郎

夕暮れに橋から見上げる谷川岳夕日を浴びて化粧をしている

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年

服部 陽向

いつも見る 静かに眠ったあの橋は 古くなっても眠ったままで

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年

高橋 美空

ありがとう　ぼくを見捨てず　導いた　恩師その名は　高橋先生

群馬県立沼田高等学校　1年　金子　拓夢

吹割の橋にかかるは谿紅葉やつと来たかと思うこの頃

群馬県立沼田高等学校　1年　井上　詩苑

橋渡り揺れる体と心すら友と楽しむ青春時代

群馬県立沼田高等学校　2年　島田　倫太朗

恋愛の実りゆく様橋のよう　年月を経て徐々に繋がる

群馬県立沼田高等学校　2年　井上　空大

満月の夜の橋でも歩きたい　特別な日になってください

長野県塩尻市立広陵中学校　3年　熊井　聖馬

暑い日に 河に飛び込む 僕たちを 優しく見ている あの眼鏡橋

長野県塩尻市立広陵中学校 3年 中野 正太

橋つくるどんなふうにかかんがえるむずかしいけどつくってみたい

長野県塩尻市立塩尻東小学校 4年 堀田 湖花

石の橋 何回たたくと いいのかな まだたたいてると 日がくれたよー

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈

橋わたる 真ん中立つて 川を見る 河原で遊ぶ 子どもが好きだ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花

わたれない わたりたいのに わたれない まほうの橋は いつか消える

長野県塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛

一番に橋を渡って偉そうな君をずうつと見ていたかった

神奈川県立光陵高等学校 2年 高間 結

普遍的愛を探して吊り橋へロマノフ朝のような足取り

神奈川県立光陵高等学校 2年 池野 弘葉

石橋を叩き壊していつそもう自分で鉄橋架けるくらいの

神奈川県立光陵高等学校 1年 上田 朱雀

八つ橋の皮から透けるあんころのような愛しさ目指しています

神奈川県立光陵高等学校 1年 佐野 晃太

橋本に怒られたなんて呟いて君のネクタイピンをながめる

学校法人高田学苑高田中学校 3年 櫻井 つむぎ

【高校生以下の部・自由詠】

最優秀賞 一首

新月は 昔の私を かくしてくれる 明日の私は 前とはちがう

長野県塩尻市立広陵中学校

3年

平

畠

彩

桜

優秀賞

二首

ふぎあれる心のようなおもて表紙 論理国語のはやてのごとく

群馬県立沼田高等学校

2年

井上 千尋 有

トランポリンの張力を夏の水よ持て足の着水するまでが空

群馬県高崎商科大学附属高等学校

2年

植原 愛 佳

選者賞・伊藤一彦選

二首

白い山 キラキラ光る 粉雪で 気づいたときには 雪だらけの僕

群馬県太田市立宝泉中学校

2年

三田

遼

琥

ガーリックフランスのよう君を思う歯磨きしてもにおいは消えぬ

クラーク記念国際高等学校

3年

横溝

惺

哉

優選者賞・小島なお選 二首

化粧する姉を鏡越しに見つつ月の所在を感じていた日

学校法人名古屋学院名古屋高等学校

1年

福田 匠 翔

言葉として残せばきつと蘇る授業終わりの小さなあくび

神奈川県立光陵高等学校

1年

猪野 田 涼 奈

入選 自由題 二十首

社会科を マスターしよう 刀狩り 参勤交代 よし休憩

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年

馬場 亜優奈

エモいとはエモーショナルと異なりて閃光に眼を閉じたる心

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年

高橋 健太郎

思い出は みんなでつくる カッターや 係の仕事 自分から動く

群馬県太田市立宝泉中学校 1年

鈴木 健太

ラケットを へし折る力 作るため 筋トレをする 夏休み

群馬県太田市立宝泉中学校 1年

佐々木 凜人

花の王 その名もぼたん でも私は 部活の王の 夏休み

群馬県太田市立宝泉中学校 1年

深津 蒼奈

久しぶり地域の祭り雨で流れ抽選会でくじひくかかり

埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年

柴崎 亮多

果樹園からほのかにかおるオレンジが全てオレンジ色にかがやいている

群馬県太田市立宝泉中学校 2年

根岸 悠登

ヒット打ち馬になりきり走りだす目指すは三つ前のホームベース

群馬県太田市立宝泉中学校 2年

三吉 れあ

人のむれ くろき頭が さまようなか きょうもさがすよ うんめいの人

群馬県太田市立宝泉中学校 2年

竹政 琉稀

風景画わざとちがった色にする自由に描いて表現する

群馬県太田市立宝泉中学校 2年

岩崎 莉里愛

逃げまわる 今日が終わればもう平気一匹で走るお祭りの夜

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 森田 絆奈

「本屋って住めないかしら」「かんたんよあなたが本屋になればいいのよ」

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 坂大 穂典

じゃあまたと赤じそ色に秋の空にみんなの木星やさしさ残る

群馬県立沼田高等学校 1年 町田 翔人

パークーのチャックに絡まる赤い糸まだ断ち切れない君への想い

群馬県立沼田高等学校 2年 茂木 健太朗

自転車通河岸段丘の四季感じ風をあびつつ今日もペダルふむ

群馬県立沼田高等学校 2年 星野 平帆

白球を追い続けてたあの頃の過ぎゆく時間は何に変わるか

群馬県立沼田高等学校 2年 藤井 來夢

木が踊り校舎から見る赤城山は どの植物よりも大きく立つ

群馬県立沼田高等学校 2年 山崎 伶音

蛙の子、鷹の子受験会場の僕はまだ蝌蚪、隣は鳶

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅

傘を巻き待ってる君に黄色い線だけを辿って逢う上野駅

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 園田 愛美

絵のようなグラデーションの景色かなゼリーののような青春が来る

利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき

入賞作品講評

◆ 選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年(1943)宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、
遼空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日
向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看
護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の
庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水
の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年(1986)東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手
伝いをしていうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の
2004年に最年少で角川短歌賞受賞。2016・2020年度「NH
K短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。その他、
現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャー
は死んでしまった』、『展開図』などがある。

高校生以下の部・題詠「橋」 最優秀賞

お駄賃が緑の募金箱に落ち赤かった橋また赤くなる

群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環

街の公共事業の募金箱でしょうか。緑色の募金箱に入れたお駄賃によって赤い橋が塗り直されてさらに赤くなったのです。お金の行く末と、緑から赤へのめくるめく展開。

高校生以下の部・題詠「橋」 優秀賞

橋だって川下りとかしたくって動きたいだろうにそれなのに僕は

神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生

本当は橋だって動き出さたくてうずうずしているはず。それなのに、僕は橋を踏んで渡ったり、その下をくぐったりして自由な肉体を生きている。結句の屈折した韻律も魅力。

高校生以下の部・題詠「橋」 優秀賞

橋わたり 水面にうつるは 君のかけ 幻想みたい キラキラ光る

群馬県太田市立宝泉中学校 1年 吉川 奈那

恋の歌。心に想う人があるのだ。だから水面に「君のかけ」が映る。四句の「幻想みたい」が印象に残る。「幻想」でなく本当に「君」が見えたのである。

高校生以下の部・題詠「橋」 選者賞・伊藤一彦選

虹なんて偽りの橋に過ぎなくて未だに誰かを迷子にさせて

神奈川県立光陵高等学校 1年 洲崎 大知

空に虹がかかると、人は虹の橋がかかったと言って喜ぶ。しかし、作者は虹は「偽りの橋」だとリアリステイックに歌う。偽りの美にだまされるなという、したたかな青春の歌。

高校生以下の部・題詠「橋」 選者賞・伊藤一彦選

水が増え川に隠れる沈下橋あるがままの水受け入れている

山口県光市立光井中学校 3年 深田 和志

沈下橋とは増水したときに川に沈んでしまうように作られた、欄干のない橋。作者は「あるがままの水受け受け入れている」と歌っているがその通りだ。生き方の理想を求める作。

高校生以下の部・題詠「橋」 選者賞・小島なお選

もうスマホがないと夢さえ追えなくて生きてくための橋の充電

神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音

情報がなければ未来さえ思い描けない時代。友だちと繋がるため、社会を知るためのスマホを充電することは、自分と世界を結ぶ架け橋を充電していることになるのです。

高校生以下の部・題詠「橋」 選者賞・小島なお選

夢のなかで吊り橋をずっと揺らす君よそんな君に恋はやらない

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 明音

夢で君は私にいじわるを仕掛けてくる。そんなことをする君に恋の思いはあげたくない。けれど、私が思うからこそ君は夢に出てくるわけでもあって。橋の上で揺れる思いです。

高校生以下の部・自由詠 最優秀賞

新月は 昔の私を かくしてくれる 明日の私は 前とはちがう

長野県塩尻市立広陵中学校 3年 平 阜 彩 桜

月の周期が一めぐりすると、新月からまた満ち欠けが始まる。わずかの光の新月は「昔の私をかくしてくれる」と歌い、新しい「明日の私」への抱負を見事に歌っている。

高校生以下の部・自由詠 優秀賞

ふきあれる心のようなおもて表紙 論理国語のはやてのごとく

群馬県立沼田高等学校 2年 井上 千尋有

吹き荒れる疾風を思わせる抽象的なデザイン教科書の表紙。それはまるで渦巻く自分の胸の内を覗くようだ。言葉にならない心の内部と論理国語の対照が鮮烈です。

高校生以下の部・自由詠 優秀賞

トランポリンの張力を夏の水よ持て足の着水するまでが空

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 植原 愛佳

飛び込み台から着水するまでの一瞬がスローモーションの映像として見えてきます。比喩の鮮やかな独創性、命令形と区切れの力強さ、大胆な空間把握。眩しいまでの表現力。

高校生以下の部・自由詠 選者賞・伊藤一彦選

白い山 キラキラ光る 粉雪で 気づいたときには 雪だらけの僕

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 三田 遼 琥

山に雪がつもっているのを美しいと思い眺めていたのだが、見ている自分も降ってきた粉雪で雪にまみれたと歌う。結句「雪だらけの僕」に喜びがあふれている。

高校生以下の部・自由詠 選者賞・伊藤一彦選

ガーリッククフランスのよう君を思う歯磨きしてもにおいは消えぬ

クラーク記念国際高等学校 3年 横 溝 惺 哉

好きな「君」を忘れられないという歌はいくつもあるが、ガーリックフランスを登場させるとは新鮮で面白い。下の句はユーモアも感じさせる。若々しい恋の歌だ。

高校生以下の部・自由詠 選者賞・小島なお選

化粧する姉を鏡越しに見つづ月の所在を感じていた日

学校法人名古屋学院名古屋高等学校 1年 福田 匠 翔

数年先の時間を生きる姉。鏡のなかで美しく、私の知らない姿になってゆく姉を眺めながら。この空のどこかに浮かぶ月の所在は、心許ない私の所在に淡く重なります。

高校生以下の部・自由詠 選者賞・小島なお選

言葉として残せばきつと蘇る授業終わりの小さなあくび

神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼 奈

言葉という形にすればずっと後からでも思い出せる。言葉として残せなかった物たちはどこへ行ってしまおうのだろう。小さな眠気の余韻のなかで作者は言葉を信じています。

高校生以下の部【題詠「橋」】

- 1 春過ぎて 橋を渡るは 夏の風 風に連れられ 歌う夏の音
太田市立宝泉中学校 1年 渡邊 登代
- 2 橋の上 とても長いが さいごまで 歩き続けて 夢が叶った
太田市立宝泉中学校 1年 賀^{ワケ}ツネ^{ツネ}トシ^{トシ}ヤ
- 3 丈夫な橋 いつもブリッチで 筋トレだ たまに痛たくて まっすぐに
太田市立宝泉中学校 1年 塚越 華楽
- 4 夏休み 写真さつえい お出かけで きれいな橋で 写真とる
太田市立宝泉中学校 1年 坂間 柚映
- 5 夏休み 家族みんなで 車出し 日本一長い 橋をわたろう
太田市立宝泉中学校 1年 笛田 虹湖
- 6 夏祭り、橋の上では、にぎわうよ夏のよぞらに 大きな花火
太田市立宝泉中学校 1年 小池 勇音
- 7 すきとおる川の風をあびながら橋でほおぼる暑い夏
太田市立宝泉中学校 1年 田畑 結花
- 8 真夏の日 明るい夜の光る川 橋を照して 美しくなる
太田市立宝泉中学校 1年 ベ^{ベル}ル^ルジ^ジン^ンラ^ライ^イデ^ディ
- 9 天の下 明るく光る 飛ぶホタル 橋にホタルがくつつき光る
太田市立宝泉中学校 1年 ベ^{ベル}ル^ルジ^ジン^ンラ^ライ^イデ^ディ
- 10 橋の上 静かに走り ランニング 魚も静か どこかへおよぐ
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 11 暑い夏 橋から見える 川魚 魚がさわぎ ずしい感じ
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 12 橋へ行き きれいな花火 まんかいだ 毎日見たい 花火大会
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 13 友達と 思い出作り 橋の上 きれいなさかな きれいなはなび
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 14 夏休み 橋から川を 見届ける 川の流れが ずしく思う
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 15 橋わたる流れる川のせせらぎが夏が来たよと教えてくれる
太田市立宝泉中学校 1年 大塚 真央
- 16 川の中橋の真下をのぞくとねたくさんの魚泳いでいたよ
太田市立宝泉中学校 1年 大塚 真央
- 17 夏休み苦手な教科をコツコツと一意専心入試の架け橋
太田市立宝泉中学校 1年 橋本 結愛
- 18 雨上がり 水面に映る 虹の橋 見上げてみれば 輝く虹
太田市立宝泉中学校 1年 福田 あおい
- 19 夏になり 橋をわたると 川の音 なめらかな音 おちついた音
太田市立宝泉中学校 1年 ベ^ベニ^ニテ^テス^スミ^ミア
- 20 未来には かがやくひかり 進んでけ 橋をこえろ かがやきにいけ
太田市立宝泉中学校 1年 ベ^ベニ^ニテ^テス^スミ^ミア
- 21 橋わたり 水面にうつるは 君のかけ 幻想みたい キラキラ光る
太田市立宝泉中学校 1年 吉川 奈那
- 22 勉強や 部活に向けての 目標に かけ橋をかけ その先へゆく
太田市立宝泉中学校 1年 石川 莉子
- 23 刀水橋 群馬と埼玉 結ぶ橋 みんなの生活 支える味方
太田市立宝泉中学校 1年 石川 莉子
- 24 夏になり、橋の下で 涼むころ 農家は今も 働いている
太田市立宝泉中学校 1年 大谷 倫太郎
- 25 親友と 橋の上から 見る空は 花火大会 夏の友情
太田市立宝泉中学校 1年 根津 百花
- 26 夏の日に 夜空にかかる 星の橋 二人をつなぐ 星のかけ橋
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 陵太

- 27 夏の日に 夜空にかかる 星の橋 二人をつなぐ ミルキーウェイ
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 陵太
- 28 夏の日に 夜空にかかる 星の橋 二人をつなぐ 七夕の夜
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 陵太
- 29 雨あがり空を仰げば目に映る 空に架かった虹の架け橋
太田市立宝泉中学校 1年 吉田 悠花
- 30 過去の自分 今の自分には関係ない 未来への橋 かけるのは自分
太田市立宝泉中学校 1年 吉田 悠花
- 31 星まつり 晴天願い 空見ると 煌星がつなぐ 夢の天橋
太田市立宝泉中学校 1年 塚越 駿介
- 32 夏休み、元気に遊ぶ 子供たち 橋から見てる 大人たちかな
太田市立宝泉中学校 1年 島田 琉希
- 33 人生の 橋を渡り 切るまでは 何があっても 渡りきる
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 34 利根川の 橋を渡り 切るときは きつと喜び 満ち溢れる
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 35 県繋ぐ 橋を渡った その時は 全く知らない 景色がある
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 36 天の川 二つを繋ぐ この橋は 二人の出会いと 別れの場所
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 37 夏休み 海橋わたり 県またぎ、橋をわたると花火の音
太田市立宝泉中学校 1年 小山 慶人
- 38 夏休み 橋を渡ると 夕焼けが しずみきつていない 夏祭り
太田市立宝泉中学校 1年 矢崎 新一
- 39 太陽が 川を宝石に 変えてゆく 夏を感じる 照る橋の上
太田市立宝泉中学校 1年 高橋 莉紗
- 40 彼は誰時 名も知らぬ君と 遊んだ日 虫とり網は 心のかげ橋となりて
太田市立宝泉中学校 1年 中原 紗穂
- 41 虹の橋 君と未来を つなぐもの 手を取り合って 歩んでゆこう
太田市立宝泉中学校 1年 菅原 一花
- 42 秋になり 紅葉季節 けしきをみ 流れる空気 水橋のたき
太田市立宝泉中学校 1年 山口 玲那
- 43 花が散り 流れる水の 音が鳴り 橋から見える 春の訪れ
太田市立宝泉中学校 1年 山口 玲那
- 44 十六夜 ながれがはやく 色もつき 橋の上での お月見時間
太田市立宝泉中学校 1年 山口 玲那
- 45 みんなでさ橋をわたろうゆつくりさ水がゆらゆらまた来れるかな
太田市立宝泉中学校 1年 茂木 優愛
- 46 夏休み 家族一緒に わたる橋 家族楽しく 残す思い出
太田市立宝泉中学校 1年 吉原 煌翔
- 47 暑い夏 ずずしい風が木をゆらす 木の下にある 川と橋の影
太田市立宝泉中学校 1年 フロレスユナロイ
- 48 あの橋を渡りきるまで繋いでた君との手話の刻まれた空
宮城県クランク記念国際高等学校仙台キャンパス 3年 横溝 惺哉
- 49 夕の橋英語で話す通学路異国の人と影を揺らして
宮城県クランク記念国際高等学校仙台キャンパス 3年 横溝 惺哉
- 50 錦帯橋支えている石の橋げたは何でとめてるいろんな石を
山口県光市立浅江小学校 5年 中村 力
- 51 熱帯夜に寝返り何度もうちながら夢へとかかる橋を探してる
山口県山口大学教育学部附属光中学校 1年 横道 玄
- 52 夏祭り 人々止める 橋の上 その後に咲くは 乱れ花火
太田市立宝泉中学校 2年 田部井 友弥

- 53 山の中 小川架かる 小きき橋に 渡る子どもは 今昔同じ
太田市立宝泉中学校 2年 田部井 友弥
- 54 渡月橋 川があらわす 朝焼けを 心も朝を 迎えだす
太田市立宝泉中学校 2年 村岡 苺姫
- 55 虹の橋 暗い気持ちを 照らし出す このエネルギー 自然の力
太田市立宝泉中学校 2年 村岡 苺姫
- 56 水面を ひらひらと飛ぶ チョウの 体もようが 橋のもよう
太田市立宝泉中学校 2年 富澤 綾音
- 57 人生は 吊橋みたいに 不安定 その道の上 ただただ生きる
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 58 栄光の 架橋つくる 私たち 一人一人が 輝いている
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 59 橋の上 紅葉と銀杏の 秋の道 電車が通る 車も通る
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 60 夏の夜蛍の光追いかけてあの日この場所思い出の橋
太田市立宝泉中学校 2年 武井 あゆみ
- 61 始まる春夏にはなれて秋になじみ冬は終わる人生の橋
太田市立宝泉中学校 2年 中野 翔太
- 62 比良三上雪さしわたせ鷺の橋
太田市立宝泉中学校 2年 小島 健
- 63 橋の下 たまやたまやと叫ぶ子ら 夏の短夜に光る花達
太田市立宝泉中学校 2年 天笠 慶吾
- 64 彦星と 織姫つなぐ 天の川 年に一度の 希望の橋
太田市立宝泉中学校 2年 相子 大空
- 65 橋の上でかがやいているあのスターはすぐきらきらしててすぐきれいだ
太田市立宝泉中学校 2年 根岸 悠登
- 66 歴史の橋 くまなき月の 渡るに似る京都の橋 渡月橋
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 67 大鼓橋 赤く染まって 美しい 島々結ぶ 小さな橋
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 68 橋の下川が流れる夏の日川の中で太陽光る
太田市立宝泉中学校 2年 河野 和輝
- 69 橋の上、親友と見た、あの景色、忘れられない、絶景だな。
太田市立宝泉中学校 2年 関根 大河
- 70 橋がつなぐ、陸と陸には、異文化あり、その差のせいは、海のせいだ。
太田市立宝泉中学校 2年 関根 大河
- 71 せまっている 楽しい秋の橋 読書の橋 いっぱい本読んで 楽しい秋の橋
太田市立宝泉中学校 2年 ゴルデーカメラ
- 72 橋の音や ギシギシわめく 人の元 やつ橋を モグモグたべて おいしいね
太田市立宝泉中学校 2年 吉田 京司
- 73 五稜郭 歴史をつなぐ 橋の数 なごる風景 星に立ち
太田市立宝泉中学校 2年 吉田 京司
- 74 わたり橋 人の心も 分かるべき 見た目はかざり 中大事
太田市立宝泉中学校 2年 吉田 京司
- 75 恐怖のなか 橋を渡り終え たっせい感 渡ってよかった 勇気を出して
太田市立宝泉中学校 2年 長嶋 奏人
- 76 石橋を たたいて渡ると いうけれど 少しは
太田市立宝泉中学校 2年 長嶋 奏人
- 77 きょうとのねゆうめいなわがしの 八つ橋は いろいろなあじがあつて おいしいのだ
太田市立宝泉中学校 2年 金子 祐大
- 78 みなかみで 橋を渡ると 違う景色 自然豊かで 胸が踊る
太田市立宝泉中学校 2年 飯野 碧

- 79 川の上 大きな音が 鳴り響く わたって怖い 川の橋
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 野々華
- 80 橋の上 まわりを見れば 花ひらく 緑がひろがる 夏のころ
太田市立宝泉中学校 2年 原田 心雪
- 81 アメリカと メキシコ国境 サンディエゴコ罗纳ド橋 国々つなぐ大切な橋
太田市立宝泉中学校 2年 原田 心雪
- 82 くずれそう ところどころ とぎれてる わたるのつらい だから橋る
太田市立宝泉中学校 2年 竹政 琉稀
- 83 この橋を はしるはしっこ 橋本が はしたないと 言う橋長
太田市立宝泉中学校 2年 竹政 琉稀
- 84 橋に列 そのわをみだす たかはしに おこるハイロ君 おい高橋と
太田市立宝泉中学校 2年 竹政 琉稀
- 85 暑い夜 花火大会 橋の下 スマホ片手に シャッターチャンス
太田市立宝泉中学校 2年 山西 祐真
- 86 夕暮れに 自然の音を ききながら 橋でみる空 とても最高
太田市立宝泉中学校 2年 小林 珠奈
- 87 高い橋 どこまで行くの 空高く 永遠に続く 長いわかれ道
太田市立宝泉中学校 2年 青木 耀生
- 88 石の橋 小さい草が あるけれど ゴミと一緒に 踏んでしまう。
太田市立宝泉中学校 2年 青木 耀生
- 89 冬の橋 とても寒そう かわいそう 橋は外だが 人は家で
太田市立宝泉中学校 2年 青木 耀生
- 90 新月の静まりかえった暗い夜我を導く一本橋
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 莉里愛
- 91 晴天の終わりのみえない一本橋奇望に満ちて歩いて行く
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 莉里愛
- 92 天の川 天にかかる橋 7月7日は その夜の輝きは 二人の喜びの場
太田市立宝泉中学校 2年 徳山 雅璃
- 93 雪が降る静かな夜に橋わたり 周りを見たら輝く世界
太田市立宝泉中学校 2年 森田 絆奈
- 94 橋の上 遊んで帰る 思いだが 楽しかったな あの頃は
太田市立宝泉中学校 2年 大久保 ことみ
- 95 人生は 失敗でつなぐ 架け橋だ 日々努力して 歩んだけ
太田市立宝泉中学校 2年 櫻木 雅人
- 96 日本橋 桜がちると 橋の上 色彩るように 広がっていく
太田市立宝泉中学校 2年 渡邊 穂乃華
- 97 橋の下 川が流れる その先に 色とりどりの 花火が上がる
太田市立宝泉中学校 2年 渡邊 穂乃華
- 98 夏の夜 橋の上から 見る花火 はじける笑顔 シャッターチャンス
太田市立宝泉中学校 2年 藤井 淳人
- 99 つなげよう 人と人との 架け橋を みんなが仲良く なるるように
太田市立宝泉中学校 2年 對比地 葉南
- 100 走る橋 この空の上 天国だ
太田市立宝泉中学校 2年 下手 麻由実
- 101 つり橋を 渡っていくと 異世界に行ってしまった ような気がした
太田市立宝泉中学校 2年 岡 夢乃
- 102 栈橋を 歩いていくと 青い世界 色んな景色が 見えてきた
太田市立宝泉中学校 2年 岡 夢乃
- 103 橋の下 川の音がね きこえるね そこをわたると 家が見えるね
太田市立宝泉中学校 2年 青柳 莉空
- 104 夏休み 川で遊ぶと 橋みつけ 橋にのぼって 川にとびこむ
太田市立宝泉中学校 2年 青柳 莉空

- 105 めざめたら 落ちたら終わり デスゲーム いっぱい橋を ミスってしんだ
太田市立宝泉中学校 2年 青柳 莉空
- 106 橋の上 流れる音に 耳うたれ 心もうたれ やすらぎ持つ
太田市立宝泉中学校 2年 鯉沼 音羽
- 107 友達と暴雨で橋にかくれてた 苦しそうな うれしそうな
太田市立宝泉中学校 2年 眞下 和彦
- 108 かわいいね日本一だね美人だね目の保ようだね橋本環奈
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 衣琳
- 109 かつこいい日本一だね美形だね目の保ようだね高橋ふみや
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 衣琳
- 110 橋の万雪どけ水がゆるやかにながれるすがた美しきかな
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 111 ぜつ望の中に光るはすくいの手それはきれいな展望のかけ橋
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 112 橋と貝 かせんじきまで来てみると 橋をうつすは川のみなも
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 113 八ッ橋をパクパク食べておいしいな京都に行きてえ金無し無職
太田市立宝泉中学校 2年 山崎 湊人
- 114 夏の日に 橋をわたって けしき見て川にうつた きれいな夕焼け
太田市立宝泉中学校 2年 長澤 奏舞
- 115 夏木立 森の青さは 美しく 橋を見上げて あの人想う
太田市立宝泉中学校 2年 加藤 美姫
- 116 夕暮れに橋の上から見る景色かがやいていて一生の思い出
太田市立宝泉中学校 2年 寺井 咲愛
- 117 橋わたる前と後では別景色橋の向こうは 咲きみだれる花
太田市立宝泉中学校 2年 大野 幹太
- 118 紅葉がひらひら落ちる秋が来たもみじ落ちると橋がある
太田市立宝泉中学校 2年 梶田 海司
- 119 利根大橋 自転車で渡り 大感動 熱中症で かつぎこまれる
太田市立宝泉中学校 2年 関 聡太
- 120 橋の上 アイスを食べて あまきかなアイスを落とす よごれるベント
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 121 八ッ橋を 家族で食し 幸せだ 妹が言ふ これまじいと
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 122 高橋で セブンによって おにぎりを 食べて見れば 中にはカラアゲ
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 123 橋通り 後を見れば おばあさん 荷もつをもとう ばあさんキレた
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 124 橋ゆれて うしろの姉が じゃんぶして やめたとたんに ゆれとまりかな
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 125 葉が落ちて見送る視線を辿っては最後に示めす記憶の架け橋
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 126 夕暮れを背景に見る吊り橋は美味しい鍋のおかずになった
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 127 目の前で左右に揺れる吊り橋は手すりの高さに咲く芝桜
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 128 雨空の濁った色を覗き見てこちらを伺う虹の架け橋
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 129 ふたりきり怖い怖いと言いながら進める足を止めぬ吊り橋
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 130 空の下岩の側橋をくぐって輝く世界かな
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき

- 143 橋の下スイカが流れる夏休み足りない休み伸ばしておくれ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 瀧井 奏楽
- 142 登下校橋から見下ろすアユの群れまだ続いてほしいこの景色
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 真庭 直也
- 141 とまらない流れる水に見入っては小石を一つ落とす橋
山口大学教育学部付属光中学校 1年 横道 玄
- 140 熱帯夜に寝返り何度もうちながら夢へとかかる橋を探してる
山口県光市立光井中学校 3年 久次 勇有
- 139 錦帯橋自然と町をつなぐ道空に描いた五つのアーチ
山口県光市立光井中学校 3年 多賀 舞羽
- 138 岩国の誇れる橋には落書きがみんなて守ろう錦帯橋
山口県光市立光井中学校 3年 紙矢 優
- 137 雨上がり空に大きな虹かかる見上げる僕の幸せの橋
山口県光市立光井中学校 3年 山田 紗夕
- 136 石橋を叩いて渡る思春期の誰にも言えない恋愛模様
山口県光市立光井中学校 3年 深田 和志
- 135 水が増え川に隠れる沈下橋あるがままの水受け入れている
山口県光市立光井中学校 3年 小野 つゆき
- 134 ザーザーと濡れては光る星のよう世界が広く未来にとぶ橋
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 133 遠い山色が変われば変化する橋に囲まれて秋景色かな
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 132 虫の声風の音色や水の音ホタルの橋かな
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 131 きらきらと広い所へむかつてるふみいれる橋
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 144 夏休み 夏の暑さに たえられず 橋のかかった 川へとびこむ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山崎 維士
- 145 あの橋を 渡る途中で 見えてくる わが家の周り 広がる田んぼ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金井 愛莉
- 146 夏の朝 橋をわたって いい気持ち 早く見たいな みんなの笑顔
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 瑠花
- 147 橋わたる その先にある 希望たち 希望を信じ 突き進んでいく
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 石原 萁奈
- 148 森のなか 橋をかけぬけ 見えるさき きれいな自然 ながめた自分
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 松本 桃佳
- 149 肝だめし 思わず握った あの子の手 妄想広がる つり橋効果
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 宝利 百華
- 150 ありがとう たくさん使う じょうぶで 安心できる 月夜野大橋
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 井田 仙太郎
- 151 橋の上見下ろした川どうせなら私もそこに流させてくれ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 眞庭 夢禾
- 152 さんさん橋緑に映える赤の色 生き物達に幸福願う
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 真央
- 153 利根の清流またぐ月夜野橋 今日も今日とて美声を奏でる
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 星野 倭
- 154 橋に立ち見下ろす川の美しい景色は毎日変わり続ける
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 吉規 杏
- 155 絆の橋こわれないように支えあう 真つすぐつづく とてもいい橋
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 戸丸 ちなつ
- 156 宝物思い出たくさん友達と二度と渡れぬ青春の橋
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 瀧澤 優羽

- 169 あの川であそんでたんだ橋の下いつもいたよねトンボさんたち
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 168 アスリート日々の努力が栄光をつかみ取るためかけ橋となる
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 167 群馬県恐怖スポット赤い橋今年の夏も怖くて行けず
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 166 空にうつる夕焼け雲橋に立ち見渡してしまうのは自分だけ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 快斗
- 165 朝日に赤く染まった赤トンボ吾妻橋から 谷川岳見ゆ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 木村 未来
- 164 利根川のくすんだ空にかかる虹その上を橋のように渡りたい
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 佐藤 こころ
- 163 県と県 橋でつながる 人と人 心でつながり あたたかい日々
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 清水 杏
- 162 夕暮れに橋から見上げる谷川岳夕日を浴びて化粧をしている
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 服部 陽向
- 161 S Lと谷川岳を 撮りたくて 人が集まる 諏訪峡大橋
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 ベネット 大峨
- 160 蟬の声 聞きながら歩く 橋の上 誰も知らない 彼らの声で
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 朱莉
- 159 橋はさみあちらに見える友人の手をふり合って歩みよる
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 田村 璃桜
- 158 みなかみの 観光になうこの橋を 歓声包む夏のひととき
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山崎 愛衣
- 157 散歩中 見かけた橋に ナツツバキ 夏を感じる 清風の日
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山崎 愛衣
- 170 橋の下魚が泳ぐ姿見てほっと安心ゆたかな自然
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 171 皆の橋はいつもよりきれいだあの橋はゴミをとろうよ力あわせて
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 172 夏休み みんなが集う 橋の下 水面がはねて 会話ははずむ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金子 すす
- 173 別世界足をふみだしみてみれば橋みえてくるどこまでも
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 杉木 珀飛
- 174 利根川の水面にうつる我未来空にかかるは夢の架け橋
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 璃心
- 175 橋渡り上から見下ろすその川はキラキラ光り気持ち良さそう
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 絆
- 176 橋の下あゆの群れが泳いでいた それを見て 少し魚が食べたくなった
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 角田 紗恵
- 177 暑い夏橋からみる利根川はキラキラ輝いていてとても美しい
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 畠山 空
- 178 みなかみのただわたり橋から見景色他の県ではみれない景色
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金古 希愛々
- 179 夕ぐれの橋をわたってきわにつき家でまつのは家族のえがお
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 横坂 優奈
- 180 大舞台 観客の目を かがやかす 感動届ける 橋になりたい
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 坂大 穂典
- 181 いつも見る 静かに眠ったあの橋は 古くなっても眠ったままで
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 美空
- 182 いつだって橋のまんなかわたります やわらか頭で生きていこうか
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 森本 歩積

- 183 人と人 言葉の橋が 場所を越え どこでもつながる 夢の架け橋
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 瀧澤 香心
- 184 言葉とは 心と心 つなぐ橋 大切にして すごしていこう
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 篠田 空河
- 185 みんなの橋 辛い時でも かかっている 橋をわたり 辛さをこえる
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 宮嶋 珠里
- 186 一步また一步と渡る夢の橋 架ける希望が確かな生き甲斐
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 心美
- 187 町の中 いつでも見れる 橋がある あたりまえだが そうでもないか
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 櫻井 道治
- 188 私たちが出会う場所は橋の上思いが繋がるのは橋の上
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 莉央
- 189 君と見る山と山をつなぐ橋ぼくと君ともつないでおくれ
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 石橋 拓弥
- 190 雨天の後虹橋の奥には 儂なき祖母がいる
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 岡村 洋杜
- 191 利根川に、小さく群がる小魚を 上から見おろすただわたり橋
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 岡村 洋杜
- 192 水の音 川の流れに 耳向けて 共に聞こえる 橋の足音
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 小林 千紗
- 193 町と町人と人にかかる橋 私もだれかのかけ橋になりたい
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 194 この町のなにも変わらぬこの景色 橋を架ければ変わるのかな
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 195 この部屋とにらめっこするのはあきたから ふみ出してみよう橋をかけよう
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 196 虹は希望世界にかかる平和の橋 この虹が消えませぬように
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 197 みんな知っているこの星のだれも知らないこの島をぬけ出したいよ橋をかけてよ
 みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 198 橋渡り 川昇る魚 いとたくまし 我のたうらい この魚も同じかな
 群馬県立沼田高校 1年 村岡 直尚
- 199 橋の端 向かってすぐに 人がいた その人いわく ここで亡き者と
 群馬県立沼田高校 1年 村岡 直尚
- 200 橋の上 誰独りも 見当たらず 川の音に 耳をかたむけ
 群馬県立沼田高校 1年 小川 直周
- 201 橋の上 川眺めれば 波立てて 夕日とともに 輝いている
 群馬県立沼田高校 1年 鈴木 滉太
- 202 橋の上車で走る私たち車内で笑う私と家族
 群馬県立沼田高校 1年 武井 大翔
- 203 橋の下ひらひらと舞ういちようの葉とてもゆっくり時間が過ぎる。
 群馬県立沼田高校 1年 田中 健登
- 204 橋からの 絶景がとても きれいだな この景色は いつみてもあきない
 群馬県立沼田高校 1年 関 陸 治
- 205 帰り道 夜風に吹かれ 空を見る 橋の上では 前しかみてない
 群馬県立沼田高校 1年 小林 遼汰
- 206 高架下 橋から落ちる 雨雫 音の静かに 儂さ感ず
 群馬県立沼田高校 1年 佐藤 大晃
- 207 帰り道 夕焼け輝き 空を見る 橋の上では 前しかみてない
 群馬県立沼田高校 1年 町田 翔人
- 208 ヒト創り陰かにできる橋の傷 喜怒哀楽の相互扶助
 群馬県立沼田高校 1年 荻原 暁汰

- 209 通知音 ないと思うが あのかかな? 「ラーメン食おうぜ」おのれ高橋
群馬県立沼田高校 1年 原 慧 周
- 210 傷つけて 君の心の脆さを知る 風ゆらぐ縄橋のような
群馬県立沼田高校 1年 金子 拓夢
- 211 不変の幸 歌い継がし 我等が詩 この先も尚 継ぐ架け橋
群馬県立沼田高校 1年 金子 拓夢
- 212 ありがとう ぼくを見捨てず 導いた 恩師その名は 高橋先生
群馬県立沼田高校 1年 金子 拓夢
- 213 橋端で 泣いていた頃 思い出す 恥かきながら あやす親見て
群馬県立沼田高校 1年 矢野 目 陸
- 214 吹割の橋にかかるは谿紅葉やつと来たかと思うこの頃
群馬県立沼田高校 1年 井上 詩苑
- 215 黄昏の水面に映る私と橋ともうつくしく架かるものかな
群馬県立沼田高校 1年 萩原 伊吹
- 216 夏の日ののどかで安らぐ橋の上池で顔出す優しい鯉の顔
群馬県立沼田高校 1年 吉野 宏貴
- 217 からくり車風切り進む空の橋 色を楽しむ音は聴こえず
群馬県立沼田高校 1年 深津 優慎
- 218 橋の上 遠くも近くも 歩くだけ 転ぶも去るも ただ歩くだけ
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 陽太
- 219 秋月の白きに映る橋の上谷川の山赤く燃ゆれば
群馬県立沼田高校 1年 原澤 彩太
- 220 人生に 危い橋渡り 続ければ ビルドザネクスト ライクアブリッジ
群馬県立沼田高校 1年 金子 遙
- 221 渡月橋瞳に映る風景は水面に映る秋の訪れ
群馬県立沼田高校 1年 齋藤 昊
- 222 将来の夢を見つけて今勉強 夢を見つけた心は鉄橋
群馬県立沼田高校 1年 高橋 良輔
- 223 橋の上 春夏秋冬 風が吹く 特に秋は 心地いいもの
群馬県立沼田高校 1年 木村 友昭
- 224 栄光の心の架橋想うのは君の心にレポリューション
群馬県立沼田高校 1年 高橋 諒成
- 225 寒くなる空気ひんやり澄んでいく 夏冬つなぐ 秋という橋
群馬県立沼田高校 1年 藤井 純ノ愛
- 226 長そうで 短き過去の 距離と時間 切っても切れぬは 縁と橋かな
群馬県立沼田高校 1年 大竹 翔太
- 227 登下校 何度も渡った 歩道橋 あの日の思い出 忘るべからず
群馬県立沼田高校 1年 荒田 煌来
- 228 架け橋の 下を流るる 激流に 揺らされる葉は 我の人生
群馬県立沼田高校 1年 高橋 俐玖
- 229 川場村ふれあい橋の下見ると もう消えている田んぼアート
群馬県立沼田高校 1年 河内 楽
- 230 日本から一日じゃ着かないらしいよ どの便も 初めて見た都市剣橋
群馬県立沼田高校 1年 割田 蹴斗
- 231 つり橋に 石を投げつけ はねさせて ぴんぴんぴん それをながめる
群馬県立沼田高校 1年 關 東 洋
- 232 寒き冬 それでも雪に 橋をかけ 滑り進もう スノーボードで
群馬県立沼田高校 1年 荒川 冬衣
- 233 歩道橋何度も通りふと思う道路突切りショットカしたい
群馬県立沼田高校 1年 阿部 拓斗
- 234 壮大に 川にたたずむ 眼鏡橋 のぞいて見るは 聡明な川
群馬県立沼田高校 2年 関 鈴音

- 247 帰り道輝く君を見て思う届くのかなと赤い橋が
群馬県立沼田高校 2年 塩谷 神温
- 246 夜の風もみじ照されひらひらと古びた橋に炎の舞い
群馬県立沼田高校 2年 飯塚 寛仁
- 245 四方の橋 君と渡った 十五夜の あの日思い出 未だ忘れず
群馬県立沼田高校 2年 唐澤 光輝
- 244 奥四万の 釣り橋歩く 黄昏時 紅葉彩る 今日秋かな
群馬県立沼田高校 2年 唐澤 光輝
- 243 人と人 つないでくれる 橋がある 世界中へと つながる架け橋
群馬県立沼田高校 2年 櫻井 耀士
- 242 石橋の水面に映る木々たちが赤く染まりて秋の夕ぐれ
群馬県立沼田高校 2年 井上 大衆
- 241 空の道走りてわたる車たち 山々つなぐ赤い大橋
群馬県立沼田高校 2年 松井 颯汰
- 240 川の上道路を繋ぐだけでなく みなかみ支える 諏訪峡大橋
群馬県立沼田高校 2年 佐々木 幹仁
- 239 冬だけの橋から見える雪景色次の季節で早く見たいな
群馬県立沼田高校 2年 本多 陽
- 238 この橋を渡る速さはこれからは今よりもっと速くなるのか
群馬県立沼田高校 2年 古舘 勝之佑
- 237 早朝にゆっくり渡る跨線橋寒さにこごえ吐く息くもる
群馬県立沼田高校 2年 須田 有起
- 236 秋の葉を 身につけ歩く 橋の中 無い葉の道は 冷たく変わる
群馬県立沼田高校 2年 山崎 遥斗
- 235 河鹿橋 燦々淡い 紅葉よ 絶えぬ命の エンブレムかな
群馬県立沼田高校 2年 真下 優
- 248 風強く揺れる橋には君とぼく止まれと言えども誰にも届かぬ
群馬県立沼田高校 2年 鈴木 奏真
- 249 この足で踏みしめ歩く栈橋は波音の歌風に乗り
群馬県立沼田高校 2年 小林 瑛太
- 250 時を経て今の自分を見てみれば見える姿は今までの橋
群馬県立沼田高校 2年 菅原 祐樹
- 251 川のそば桜とともに思い出す今はもう無きあの栈橋を
群馬県立沼田高校 2年 川越 栞太
- 252 もみじ降るそれ目で追えば川入り橋から探すもみじの王者
群馬県立沼田高校 2年 朝比奈 龍希
- 253 努力とは激流にかかる橋のように我が夢へと続くアーチとなる
群馬県立沼田高校 2年 小林 里駆
- 254 こんにちは橋を歩いて会いに行くことも会う日を楽しみにする
群馬県立沼田高校 2年 金井 秀五
- 255 夕暮れの人影なくなる浅橋にただ虫の声だけ鳴り響きわたる
群馬県立沼田高校 2年 加藤 陸斗
- 256 夕暮れの浅橋渡る二つの影水面で踊るかわぐものよう
群馬県立沼田高校 2年 新木 陽太
- 257 違う道進むために橋探す 渡らなければそれが過ち
群馬県立沼田高校 2年 石坂 颯我
- 258 十八の冬大学合格目指すが 勉強してなくて合格への橋なくなりそう
群馬県立沼田高校 2年 梅澤 楽
- 259 いくつもの山や谷ある行き事に 橋を架けるが人の生
群馬県立沼田高校 2年 大澤 陽心
- 260 橋の中そこから眺む景色いかにも美しきもの
群馬県立沼田高校 2年 小川 煌太

- 273 四季折々 心温まる ゆげの花 まっかに染る さんさん橋
群馬県立沼田高校 2年 竹田 壮太郎
- 272 安全に道を繋ぐ通り道心と心も繋ぐ架け橋
群馬県立沼田高校 2年 武 樹 弥
- 271 意味も無く 遠回りした 帰り道 歩道橋から 眺める景色
群馬県立沼田高校 2年 瀧澤 奏心
- 270 夕暮れや我が身に染みる虫の声人も通らぬ名も知らぬ橋
群馬県立沼田高校 2年 高橋 凌真
- 269 この橋を端から端までランニング中くだらぬ思い付き 今日週末
群馬県立沼田高校 2年 高橋 巧
- 268 川隠し橋をも隠す霧雪で見えざるように他人の気流るる
群馬県立沼田高校 2年 高橋 翔太
- 267 古橋を歩いて渡る京の街修学旅行的一幕である
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也
- 266 桜散る季節は変わり時が立つ思い出の橋変わらずぽつりと
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也
- 265 橋の下落とした鍵も見つからず泣きべそをかく夕暮れが近づく
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也
- 264 渡る橋行き交う人の足音に混ざりて聞こふ秋の声かな
群馬県立沼田高校 2年 島田 倫太郎
- 263 橋渡り揺れる体と心すら友と楽しむ青春時代
群馬県立沼田高校 2年 佐藤 大輝
- 262 眠い目を 擦りながら 渡る橋 始発を待ち 吐く白息
群馬県立沼田高校 2年 折茂 奏汰
- 261 みなかみの空に輝く赤い橋そこから見える自然は宝物
群馬県立沼田高校 2年 折茂 奏汰
- 274 細い橋 下でも見れば 足震え 落ちるものかと 踏み出す一步
群馬県立沼田高校 2年 角田 快理
- 275 広がる緑季節彩る躑躅の花一本橋で行く尾瀬ヶ原
群馬県立沼田高校 2年 中澤 政義
- 276 橋渡り 渡ったものは いいけれど お先真暗 もういやだ
群馬県立沼田高校 2年 信澤 慎之介
- 277 友人と 友人つなぐ 架け橋に 友情生まれ 仲の良し
群馬県立沼田高校 2年 信澤 慎之介
- 278 橋の下 父と蹴った サッカーボール 夕日の沈みが 帰りのサイン
群馬県立沼田高校 2年 古川 伊武紀
- 279 受験生親も全力で協力し合格へ 進路への橋をかけていく
群馬県立沼田高校 2年 宮内 奏友
- 280 合格の 橋を渡って 進んでく 僕はまだまだ 端で落ちそう
群馬県立沼田高校 2年 宮野入 廣一
- 281 秋も末なりたい自分見定めれば 修羅の橋架け前へ進むのみ
群馬県立沼田高校 2年 山崎 伶音
- 282 橋の上釣りするおやじにきいてみたいそんなところではんと釣れるの？
群馬県立沼田高校 2年 吉野 憲汰
- 283 橋の脇一つ置かれた石の碑の 消えかけた文字ゆっくりなぞる
群馬県立沼田高校 2年 青木 裕作
- 284 月の夜太陽の昼と橋わたり その有様人の世のよう
群馬県立沼田高校 2年 新井 虎太郎
- 285 旅先の見知らぬ橋を通りすぎ橋の名はない歩き続ける
群馬県立沼田高校 2年 新井 柁喜
- 286 タイガース亡き横田さんに捧げた合唱栄光の架橋が造った奇跡リーグ優勝
群馬県立沼田高校 2年 石井 晃太

- 299 橋の下 生きものたちが 休んでる きつと暑くて 休んでるんだ
塩尻市立広陵中学校 2年 保科 奏弥
- 298 雨が降る 橋の下での あまやどり ついてないなと ぶつぶつと言う
塩尻市立広陵中学校 2年 保科 奏弥
- 297 川の上 木で作られた 橋がある 橋のおかげで 人が渡れる
塩尻市立広陵中学校 2年 保科 奏弥
- 296 炎天下追われた末に見えた橋 三途に架かる渡しへの橋
群馬県立沼田高校 2年 本多 真那士
- 295 空架かる七色の虹雨の後 心を繋ぐ平和の架け橋
群馬県立沼田高校 2年 関 優人
- 294 夏の夜に 家族と共に 橋越えて ホタル探しに 車乗る
群馬県立沼田高校 2年 関 俊祐
- 293 呼吸乱しペダル踏みこみ登る橋朱い日光に背中を押されて
群馬県立沼田高校 2年 小林 千惺
- 292 弁当のおかずをねだる友達の口へ心へ橋渡しする
群馬県立沼田高校 2年 河野 辰海
- 291 県庁が前橋にある群馬県 いいところだよ一度はおいで
群馬県立沼田高校 2年 金崎 壮吾
- 290 石橋をたたかずわたる この勇氣 あつたらいいな 私の未来
群馬県立沼田高校 2年 加藤 大輝
- 289 旅の日真つ赤に染まる渡月橋 桂川も輝く我が目のように
群馬県立沼田高校 2年 大嶋 悠
- 288 恋愛の実りゆく様橋のよう 年月を経て徐々に繋がる
群馬県立沼田高校 2年 井上 空大
- 287 差を比べ苦難のりこえ人の橋 争いあろうと崩れぬものかな
群馬県立沼田高校 2年 石井 周平
- 300 ゆうわくに まける自分と 勝つ自分 心の中の 吊り橋渡たる
塩尻市立広陵中学校 2年 大野 心
- 301 歩道橋 使わないが 便利そう 自転車用の 道路も欲しい
塩尻市立広陵中学校 2年 竹下 裕斗
- 302 橋の下普段は見えない場所があるそこを見ると新たな知識
塩尻市立広陵中学校 2年 酒井 太希
- 303 吊り橋を 渡る時の ドキドキと ほどこいてくれる 母の手のひら
塩尻市立広陵中学校 2年 窪田 桃子
- 304 歩道橋わたって行つたうどん屋へ みんなで行つた日曜日にね
塩尻市立広陵中学校 3年 竹下 柊汰
- 305 可愛いいな 橋本かな これからも きつと有名 人気女優
塩尻市立広陵中学校 3年 塚原 陽葵
- 306 帰り道 歩道橋から 見る景色 今日太陽が しずんでいくなあ
塩尻市立広陵中学校 3年 百瀬 麗王
- 307 橋渡る 渡つた先に なにがまつ どんな景色が 広がっている？
塩尻市立広陵中学校 3年 小山 泰正
- 308 橋渡る そこに広がる 幻想郷 自分の物に したいくらいだ
塩尻市立広陵中学校 3年 小山 泰正
- 309 京の橋 また行きたいな 卒業後 旅行の予定 今からたてる
塩尻市立広陵中学校 3年 竹折 颯真
- 310 なぞの橋車も人も通れない通つたのは君だけだった
塩尻市立広陵中学校 3年 安江 憲伸
- 311 どこでもいい有名な橋に行つてみたい誰でもいいよ紹介よろ
塩尻市立広陵中学校 3年 熊井 聖馬
- 312 満月の夜の橋でも歩きたい 特別な日になってください
塩尻市立広陵中学校 3年 熊井 聖馬

- 313 小さいころ 平均台で あそんだな 落ちたらしんじょう 小さな橋で
塩尻市立広陵中学校 3年 平島 彩桜
- 314 ひっそりと 想うあなたの 後ろ姿 あなたの右橋 つないじゃいたい
塩尻市立広陵中学校 3年 平島 彩桜
- 315 秋月の 孤月がうつる 丸橋の 水面ゆれる 一人のお月見
塩尻市立広陵中学校 3年 中野 正太
- 316 暑い日に 河に飛び込む 僕たちを 優しく見ている あの眼鏡橋
塩尻市立広陵中学校 3年 中野 正太
- 317 野原には たんぽぽわたげが 咲き乱れ 足元に架る 僕だけの橋
塩尻市立広陵中学校 3年 中野 正太
- 318 遠くより 流れる川を またぐ橋 雨水またいで 帰るこの夜
塩尻市立広陵中学校 3年 齋藤 煌仁
- 319 橋くんがとてもおもしろいみんながすぐわらっていい子だと思おう
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 320 橋をわたるたくさんなくなるま人がいる自動車もいるここはあんぜんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 321 橋がこわいひもがちぎれそうこわくて、わたりにくいよあまりわたらない
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 322 なにをしよう思っていたら橋原くんはなしをしてきたいっしょにあそんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 323 ふゆにはね橋のうえではとうけつだとうこうちゅうにころんじゃだめだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 324 橋のうえがいとうにいるはちのすだもうこのはしももうわたれない
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 325 橋のしたくもがいっぱいおかしいなあそんでみたらたくさんあった
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 326 古い橋あながあきそう気がひける橋がきしむともうわたらない
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 327 よう水路小さい橋で石の橋でこぼこしてころんでしまおう
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 328 橋がこわい ぼくの友達 こわがりだ ぼくもこわいよ ゆれているから
塩尻市立塩尻東小学校 4年 池田 陽紀
- 329 橋原くん 四年一部の 友達だ かれはたすける 名人なんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 池田 陽紀
- 330 良い橋は 半円なんだ おもしろい たてるのたいへん たかそうなんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 池田 陽紀
- 331 橋わたるおちそうですこしこわいけど学校行くためがんばってわたる
塩尻市立塩尻東小学校 4年 堀田 湖花
- 332 橋つくるどんなふうにかかんがえるむずかしいけどつくってみたい
塩尻市立塩尻東小学校 4年 堀田 湖花
- 333 橋は地しんですぐにこわれないがんじょうでもいえはすぐこわれそうだな
塩尻市立塩尻東小学校 4年 堀田 湖花
- 334 たなばたの時橋をみるときれいだな赤橋キラキラひかっているよ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 田中 未釉
- 335 おまつりの時橋をみるとすごいねキラキラひかっているキラキラキラと
塩尻市立塩尻東小学校 4年 田中 未釉
- 336 かがやく橋 一歩わたると 天使さんが むかえにくるよ この橋不思議ね
塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈
- 337 あの橋は 全部私が作ったの 一歩ふんだら こわれちゃったよ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈
- 338 石の橋 何回たたくと いいのかな まだたたいると 日がくれたよー
塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈

- 351 こないだねキレイな橋を見たんだよキレイすぎてさビツクリしたよ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 苺果
- 350 映画できたまにあるよねこうゆうのポロイ橋をさわったつてるやつ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 苺果
- 349 できたらな にじの橋をさ わたりたい 夢のまた夢 いつか叶うさ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 苺果
- 348 ホースある 今日晴れてる じゃあつくろう にじいろの橋 きれいな橋を
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 347 橋がつく あまりうかばん じゃあ書こう この事書こう いい案がなあ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 346 橋わたろ しずかにわたる 落っこちる ゆっくりわたる しずかにわたる
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 345 橋ごがね ぐらぐらゆれる 大変だ しっかりつかんで あつ夢だった
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 344 わたれない わたりたいのに わたれない まほうの橋は いつか消える
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 343 テレビつけ 災害起きて 橋くずれる そんなニュースは 好きではないな
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 342 歩いてる 橋のはじっこに 花がある かわいらしいな 思わず笑う
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 341 下校中 橋の真ん中 来た時に すずめが三羽 おどっていたよ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 340 橋の下 いつも遊んでる 子供たち 涼しそうだなど 通りすぎるよ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 339 橋わたる 真ん中立つて 川を見る 河原で遊ぶ 子どもが好きだ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 364 もうスマホがないと夢さえ追えなくて生きてくための橋の充電
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 363 普遍的愛を探して吊り橋へロマンフ朝のような足取り
神奈川県立光陵高等学校 2年 池野 弘葉
- 362 神様はよく躓いてしまうから壊してしまう七色の橋
神奈川県立光陵高等学校 2年 池野 弘葉
- 361 降ってくるばいなつぶるの爽やかさふたり雨夜の歩道橋にて
神奈川県立光陵高等学校 2年 高間 結
- 360 一番に橋を渡って偉そうな君をずっと見ていたかった
神奈川県立光陵高等学校 2年 高間 結
- 359 歩道橋の手すりをなぞり思い出す幼い頃の東京タワー
神奈川県立光陵高等学校 2年 池上 真央
- 358 架け橋をイルカの涙で作ったのいつかの君のペンになりたい
神奈川県立光陵高等学校 2年 池上 真央
- 357 流れてるゆっくり静かにきらきらと橋の下のぞくきれいな夜空
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 356 流星群水面にうつる流れてる橋をのぞくとたくさんの星
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 355 車乗り遠出してきたキャンプしに川を見つけて橋で大はしゃぎ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 354 友達と自転車乗って橋わたる すごく長いな すごく楽しいな
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 353 橋わたる大きな橋わたってないわたってみたいでもこわいんだ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 苺果
- 352 テーマがね決められてるとむずかしい橋を入れなきゃいけないのにな
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 苺果

- 377 あと五秒吊り橋効果がやってくるだからさちよつとその手を貸して
神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生
- 376 橋だって川下りとかしたくって動きたいだろうにそれなのに僕は
神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生
- 375 虹なんて偽りの橋に過ぎなくて未だに誰かを迷子にさせて
神奈川県立光陵高等学校 1年 洲崎 大知
- 374 八つ橋の皮から透けるあんなころのような愛しさ目指しています
神奈川県立光陵高等学校 1年 佐野 晃太
- 373 「この橋を渡るべからず」一休さん漢字で書いたらどこを渡るの
神奈川県立光陵高等学校 1年 上田 朱雀
- 372 石橋を叩き壊していつそもう自分で鉄橋架けるくらいの
神奈川県立光陵高等学校 1年 上田 朱雀
- 371 手の中で握られているシャーパーンが社会と私を繋いでる橋
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 370 吊り橋の手すりを掴む世界ごと全部私のもものなれよと
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 369 無機物になりたいわたし虹橋の入口まではまだまだ遠く
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 368 栈橋は生きる私のプロログため息さえも波紋に変われ
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 367 いつの日か与える人になりたくて架け橋になれわたしの短歌
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 366 盆帰り橋を渡ったら異世界へいけた頃とは違う深呼吸
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 365 イヤホンが二人の想いの橋となり ほらたった今、音が渡った
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 378 溶けきったパピコと僕と歩道橋階段降りたら青くない冬
神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生
- 379 脈々と群馬の森の公園の橋の向こうに立つマテバシイ
高崎商科大学附属高等学校 2年 植原 愛佳
- 380 八ッ場ダムの橋から遠く眺めてる水上バスに指をかさねる
高崎商科大学附属高等学校 2年 植原 愛佳
- 381 ゴンドラに乗る花嫁よ永遠の誓いを立てよりアルト橋に
高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅
- 382 反橋の欄干越しに散りゆきて花筏となる水面の君は
高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅
- 383 沈下橋から君は川へと降り立って名を知らぬ花を覚えてくれた
高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅
- 384 桜咲き鶯鳴いて石橋は君らをのせて静かな水面
高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 明音
- 385 八ッ橋の日食の餡に想い馳せ京都に行けぬ修学旅行
高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 明音
- 386 夢のなかで吊り橋をずっと揺らす君よそんな君に恋はやらない
高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 明音
- 387 三角が敷き詰められて鉄橋はビルのひかりの散る万華鏡
高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 健太朗
- 388 干していたシャツが一枚足りなくて鉄橋の上の月に訊ねる
高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 健太朗
- 389 午後三時おやつの前に祖父いつも橋まであるく五歳のわたし
高崎商科大学附属高等学校 2年 園田 愛美
- 390 すれ違う心に架けてくれた橋あなたのような勇氣もちたい
高崎商科大学附属高等学校 2年 園田 愛美

- 391 担任の名字にいつも橋があつて世界の橋の陰謀なのよ
高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環
- 392 お駄賃が緑の募金箱に落ち赤かった橋また赤くなる
高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環
- 393 早蕨を両手に抱えて渡る橋水面もきらきら輝いて
高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環
- 394 いつか見た七色の橋輝きてまた見ようねとからめた小指よ
東京都普連土学園高等学校 1年 米倉 望
- 395 陸橋の上より街を眺むれば豆粒のごと車ころがる
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 396 橋脚に消しきれていない落書きの跡 透き通る川は残酷
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 397 この邪魔な窓の向こうの陸橋はライスパーにくるんで食おう
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 398 寂しからむ神社の小さき石橋は人に渡らること能はず
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 399 自動車の流れる道を跨ぎつつ風にないている夜の陸橋
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 400 橋本に怒られたなんて呟いて君のネクタイピンをながめる
三重県高田中学校 3年 櫻井 つむぎ

高校生以下の部
【自由詠】

- 1 夏が来た 暑い日が来る だからこそ 外に出ていき 夏をまんきつ
太田市立宝泉中学校 1年 齋藤マコト
- 2 暑すぎて フラフラすると 思ったら熱中症で 倒れかけた
太田市立宝泉中学校 1年 村川 穂徠
- 3 熱中症 気をつけるため 水分を こまめにとろう
太田市立宝泉中学校 1年 鈴木 健太
- 4 思い出は みんなでつくる カッターや 係の仕事 自分から動く
太田市立宝泉中学校 1年 鈴木 健太
- 5 夏祭り あの子と一緒に 金使い いっぱい買って 金消えてった
太田市立宝泉中学校 1年 桑原 唯月
- 6 ゆかた着て 青春楽しむ 夏祭り ささいなことも 立派な思い出
太田市立宝泉中学校 1年 塚越 華楽
- 7 楽しいな はるなの自然 ここち良いあらすことなく 自然のめぐみ
太田市立宝泉中学校 1年 塚越 華楽
- 8 通知表 わくわくなのは 最初だけ 渡されたとき かくすだけ
太田市立宝泉中学校 1年 塚越 華楽
- 9 市総体 団体戦 個人戦 勝って喜び負けて悔しむ
太田市立宝泉中学校 1年 坂間 柚映
- 10 ジリジリと 暑い中行く 部活では 顔を真っ赤に 水分補給
太田市立宝泉中学校 1年 笛田 虹湖
- 11 夏祭り 男女混合 青春し イカヤからあげ 爆食い大会
太田市立宝泉中学校 1年 加藤 雪華
- 12 外に出て 女子には必須 日焼け止め これで完璧 日焼け対策
太田市立宝泉中学校 1年 加藤 雪華
- 13 夏休み 毎年残る 課題を 最終日にじごくを見る
太田市立宝泉中学校 1年 佐々木 凜人
- 14 ラケットを へし折る力 作るため 筋トレをする 夏休み
太田市立宝泉中学校 1年 佐々木 凜人
- 15 夏休み 毎日遊び 楽しい日々 遊びまくりで 宿題残る
太田市立宝泉中学校 1年 滝澤 莉乃
- 16 友達と はるなこうげんで オールこぎ きずなふかめる 140人
太田市立宝泉中学校 1年 松島 和瑚
- 17 初めてのカッター訓練楽しいなむずかしいけどみんなで協力だ
太田市立宝泉中学校 1年 田畑 結花
- 18 真夏夜の 輝く花火 遠くまで 明るい夜が続く色空
太田市立宝泉中学校 1年 佐藤マコト
- 19 宿題だ とても暑いな 夏休み 動きたくない アイスを食べる
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 20 天ノ川 きれいな銀河 幸せだ 来年もまた 見れたらいいな
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 21 今日もまた 家で過ごし たいくつだ 窓から見えた 大きな花日
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 22 七夕に お願い事を 短冊に 世界のみんな 平和に過ごす
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 23 雪が降り 地面は白く きれいだな とけずに明日 また遊びたい
太田市立宝泉中学校 1年 大原 彩衣良
- 24 思い出だみんな協力カッターや楽しく散策みどりの自然
太田市立宝泉中学校 1年 内田 花音
- 25 夏の日の猛暑の中の部活後の帰宅後の冷えたサイダー極上の味
太田市立宝泉中学校 1年 高橋 優互
- 26 夏休み 宿題が沢山 大変だ それでも頑張れ コツコツと
太田市立宝泉中学校 1年 深町 帆花

- 27 夏祭り 前からずっと 楽しみに ついにその日が やってくるかな
太田市立宝泉中学校 1年 深町 帆花
- 28 夏休み 楽しい夏に なるように きずな深める 思い出だ
太田市立宝泉中学校 1年 長嶋 虹音
- 29 夏休み外に暑くて出てみればセミのなきごえきこえてくる
太田市立宝泉中学校 1年 大塚 真央
- 30 かき氷つめたくてあまいおいしなでも食べすぎには注意だね
太田市立宝泉中学校 1年 大塚 真央
- 31 夏祭りたくさんの屋たいおいしそう花火の音が盛り上げてくれる
太田市立宝泉中学校 1年 大塚 真央
- 32 夏休みコロナが終わり家族旅行課題終わらせ新潟へ行く
太田市立宝泉中学校 1年 橋本 結愛
- 33 ONE TEAM クラスみんなで 協力し 絆が生まれた カッター訓練
太田市立宝泉中学校 1年 福田 あおい
- 34 初めてのカタター訓練大変だみんなの絆深めていこう
太田市立宝泉中学校 1年 桑子 歩大
- 35 燃え上がる キャンプファイヤー みんなとは 踊り続けた 楽しんだ今日
太田市立宝泉中学校 1年 ベニテス ミア
- 36 川の音 川の流れば どこまでも 流れ続ける 未来に向かう
太田市立宝泉中学校 1年 ベニテス ミア
- 37 夏休み 砂浜に立ち スイカ割り 心に残る 夏の思い出
太田市立宝泉中学校 1年 吉川 奈那
- 38 榛名湖で カッターに乗り 雨降るが 負けずに進め きらめく友情
太田市立宝泉中学校 1年 石川 莉子
- 39 先輩と 一緒にやった 部活動 過ごした日々は 輝いている
太田市立宝泉中学校 1年 石川 莉子
- 40 夜になり 火の神表れ てんかする 学年全員 みんなでまつる。
太田市立宝泉中学校 1年 大谷 倫太郎
- 41 ガイドさん 教えてくれる やさしさや 詳しく教え 勉強なり
太田市立宝泉中学校 1年 櫻井 瑞季
- 42 かき氷 おいしく食べて のどかわき 最後のしるを のみほしていた
太田市立宝泉中学校 1年 櫻井 瑞季
- 43 夏休み 猛暑日の中 水遊び 汗を流し 気持ちよくなり
太田市立宝泉中学校 1年 櫻井 瑞季
- 44 楽しみな 夜の恋ばな もりあがり なかなか寝れず こっそりトーク
太田市立宝泉中学校 1年 重田 乃衣
- 45 がんばれの かけ声でこぐ カッターは きずな深まり いっちだんけつ
太田市立宝泉中学校 1年 重田 乃衣
- 46 ワンチーム 心を一つ 高原で おこられたけど オールオツケイ
太田市立宝泉中学校 1年 重田 乃衣
- 47 火をかこみ 雨にも負けず もえあがり みんなでおどる ジンギスカンを
太田市立宝泉中学校 1年 重田 乃衣
- 48 先輩と共に過ごしたこの夏は かけがえのない、ぼくの宝だ
太田市立宝泉中学校 1年 亀井 颯真
- 49 全員で共にすごした高原で新たな絆共につくろう
太田市立宝泉中学校 1年 亀井 颯真
- 50 がんばった みんなで気持ち 一つにし かけ声合わせ ONE TEAM
太田市立宝泉中学校 1年 大沼 紫季
- 51 おどったよ みんなで輪になり 3回も おどりすぎて 寝むれなかった
太田市立宝泉中学校 1年 大沼 紫季
- 52 市総体 円じん組んで 気持ち一つ みごと優勝 うれしいなあ
太田市立宝泉中学校 1年 大沼 紫季

- 53 高原学校 クラスのみんなと 団結し みんなで感じた クラスの一体感
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 絢斗
- 54 夏祭り 屋台があつて にぎやかで 踊りやかかけ声で 熱気につつま
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 絢斗
- 55 部活動 この夏別れや うれしみが たくさんあふれて 思い出となる
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 絢斗
- 56 バチバチと雨にけされずとも燃える火は人の心も燃やし続ける
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 莉聖
- 57 友達とコソコソ話寝る前の秘密のトークショーの始まり
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 莉聖
- 58 友達と話しているといつのまにとははじめているアイスクリーム
太田市立宝泉中学校 1年 久保田 莉聖
- 59 神社の木 手に綱もつて、弟と 共に見たのは 黒いクワガタ
太田市立宝泉中学校 1年 根津 百花
- 60 だれだろう 名知らず顔知るだけかとも 自然と笑顔に キャンプファイヤー
太田市立宝泉中学校 1年 大内 愛友花
- 61 エアコンのにおいで感じる夏休み 永遠ループ 宿題地獄
太田市立宝泉中学校 1年 大内 愛友花
- 62 目を閉じる 楽しかったな夏休み 残るはドリル 残る一日
太田市立宝泉中学校 1年 大内 愛友花
- 63 七夕で夜空を見たら流れ星 願いを込めて手と手あわせる
太田市立宝泉中学校 1年 川島 璃亜人
- 64 夏休み 向日葵満開 青い空 風鈴なびく 暑いひざし
太田市立宝泉中学校 1年 新島 杏奈
- 65 夏祭り 泳ぐきんぎょ 揺れる提灯 光るねぶたは 青い思い出
太田市立宝泉中学校 1年 関谷 音心
- 66 夏の夜流れ星降るひとときは 願い事さえ叶えてしまふ
太田市立宝泉中学校 1年 吉田 悠花
- 67 夏休みかき氷食べて頭がキーン 暑い中いっしょうけんめいに鳴いているセミ
太田市立宝泉中学校 1年 小久保 陽菜
- 68 夏の夜 耐えずに鳴くよ ホトトギス耳をすませば 鳴り響く音
太田市立宝泉中学校 1年 佐藤 蒼空
- 69 夏の朝 鳴き続けるよ セミの声 七日間の 容易い命
太田市立宝泉中学校 1年 佐藤 蒼空
- 70 梅雨終わり じめじめしてくる 夏来たり 子供はみんな 夏休みかな
太田市立宝泉中学校 1年 島田 琉希
- 71 夏の夜 大きく響く 太鼓音 尾島の祭り 尾島のねぶた
太田市立宝泉中学校 1年 島田 琉希
- 72 この自然 これから先も ぼくたちの 一人一人が 守っていこう
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 73 七夕の 夜空を見上げた ぼくたちは きつと明かるい 未来がある
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 74 夏祭り みんなで楽しむ この夏は 一生消えない 思い出になる
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 75 キリギリス 虫たちの歌 聞こえては 耳をすまして 目をつむりだす
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 76 夏休み アニメの世界に 入り込み 楽しく遊んで その後は…
太田市立宝泉中学校 1年 関塚 晴信
- 77 夏休み 初夏の香りと セミの声 空をめがけて 輝く光
太田市立宝泉中学校 1年 原田 梨桜菜
- 78 コロナ明け キレイな色のゆかた着て彼と行きたい花火大会
太田市立宝泉中学校 1年 原田 梨桜菜

- 79 八月に 友人といく 夏まつり 友人といく 夏まつり
太田市立宝泉中学校 1年 田島 優希
- 80 夏休み 無言で食べる スイカバー 喰えば喰うほど 棒が見えだす
太田市立宝泉中学校 1年 高橋 蒼空
- 81 オールこぎ 息を合わせて こぐことで さらに深めた 友とのきずな
太田市立宝泉中学校 1年 松島 由奈
- 82 コロナ明け 何年ぶりだろ 夏まつり 今年の夏は おおはしゃぎ
太田市立宝泉中学校 1年 松島 由奈
- 83 七夕の きらきら光る 星の空 二人がであう すてきな時間
太田市立宝泉中学校 1年 ブート ラミ
- 84 夏休み かがやく水面 冷たい海 それをてらす 明るい光
太田市立宝泉中学校 1年 ブート ラミ
- 85 秋の日に 赤く染まった もみじの葉 爽籟にふかれ ひらひらとまう
太田市立宝泉中学校 1年 ブート ラミ
- 86 夏休み 空を見上げて お城が建って いた山城
太田市立宝泉中学校 1年 矢崎 新一
- 87 夏休み 寄ったコンビニ アイスを 食べた少年
太田市立宝泉中学校 1年 矢崎 新一
- 88 コロナ明け 初めて気づく 大切さ 輝く花火 心を照らす
太田市立宝泉中学校 1年 高橋 莉紗
- 89 夏休み せみがミンミン 鳴り響く それにつられて 気持ちが高揚する
太田市立宝泉中学校 1年 高橋 莉紗
- 90 夏休み 期待でふくらむ あの雲は 波に映らず 入道雲
太田市立宝泉中学校 1年 中原 紗穂
- 91 蟬の音を 頭の中に 響かせて 今日も縁側 うちわ片手に
太田市立宝泉中学校 1年 中原 紗穂
- 92 雨が降り きらめく木々は 美しく みどり豊かな 榛名の自然
太田市立宝泉中学校 1年 菅原 一花
- 93 天の川 二人が出会い 過ごすころ 想いをこめて 星にねがいを
太田市立宝泉中学校 1年 菅原 一花
- 94 夏休み 背番号かかげ 全力 出しきろう
太田市立宝泉中学校 1年 清水 雪華
- 95 風そよぎ 風鈴鳴り出す 涼しさが 楽器のように 音楽奏でる
太田市立宝泉中学校 1年 赤石 楓
- 96 海ぞいの 砂のきらめき 空見れば 飛行機雲が 伸びていく
太田市立宝泉中学校 1年 赤石 楓
- 97 夜空見て 空いっぱい 流れ星 願いの数だけ 光り輝く
太田市立宝泉中学校 1年 赤石 楓
- 98 草原で 広がる自然 はるな山 青で満ちてる 輝くはるな湖
太田市立宝泉中学校 1年 高田 美麗
- 99 夏休み あそびたいけど 宿題 部活多いが あきらめない
太田市立宝泉中学校 1年 亀井 穂香
- 100 友達と 榛名高原 学校で 思い出つくり きずな深める
太田市立宝泉中学校 1年 成塚 須美怜
- 101 人と姫 離してしまふ 天の川 待ち遠しいと 願う七夕
太田市立宝泉中学校 1年 葛山 響
- 102 花の王 その名もぼたん でも私は 部活の王の 夏休み
太田市立宝泉中学校 1年 深津 蒼奈
- 103 夏が来た 強い日ざしに 囲まれて 熱中症に 要注意
太田市立宝泉中学校 1年 長 和佳奈
- 104 山の中 こもればきらめく 木の下で 鳥のさえずり 聞こえてくるよ
太田市立宝泉中学校 1年 岡部 璃子

- 117 榛名山 山の自然を 体感し あぶないけれど 経験になる
太田市立宝泉中学校 1年 田村 快音
- 116 夏のセミ わずかな命 生きている 僕らもみんな 生きているんだ
太田市立宝泉中学校 1年 大谷 総一朗
- 115 夏休み みんなと遊び 面白い きずなも深まり 期始め準備
太田市立宝泉中学校 1年 大谷 総一朗
- 114 雨の中 少し残念 でもやろう みんなで声出し カッターをこぐ
太田市立宝泉中学校 1年 長岡 和香
- 113 夏休み みんなで楽しむ スイカ割り みんなでわらい スイカはおいしい
太田市立宝泉中学校 1年 竹下 さら
- 112 波が鳴り 太陽でらし 石いたく 海にはいれば 目がしみてゆく
太田市立宝泉中学校 1年 山口 玲那
- 111 思い出は みんなをつなぐ 大切な かけがえのない 一番の物
太田市立宝泉中学校 1年 山口 玲那
- 110 暑い夏 部活終わりにまっている 我らがみかた 涼しい部屋
太田市立宝泉中学校 1年 小野 さくら
- 109 暑い夏 窓をあければ 熱風だ 部屋をしめきり クーラーがながん
太田市立宝泉中学校 1年 小野 さくら
- 108 夏の夜 耳をすませば セミの声 みんなで奏でる 演奏のよう
太田市立宝泉中学校 1年 小野 さくら
- 107 榛名湖の 紺に染まる 空の下 いきをあわせて こぐカッター
太田市立宝泉中学校 1年 北爪 陽菜
- 106 全力で 戦いぬいた 市総体 あふれかえった 涙と笑顔
太田市立宝泉中学校 1年 北爪 陽菜
- 105 榛名湖で 不安たくさん あったけど 絆生まれた 高原学校
太田市立宝泉中学校 1年 北爪 陽菜
- 118 夏休みみんなで旅行楽しいな温泉プール楽しかったよ
太田市立宝泉中学校 1年 茂木 優愛
- 119 夏まつり 人が多くて 暑いけど ワイワイ楽しい 屋台たち
太田市立宝泉中学校 1年 高澤 桃
- 120 夏休み 楽しいことが あるけれど 宿題を先に 終わらせよう
太田市立宝泉中学校 1年 津久井 大遥
- 121 漆黒の雲の中から降り注ぐ光の柱と響く雷鳴
太田市立宝泉中学校 1年 須田 一輝
- 122 夏休み みんなと一緒に スイカ割り プール遊びも 楽しみだな
太田市立宝泉中学校 1年 山下 桃実
- 123 夏休み 久しぶりに 海に行き 家に帰ると 多くの課題
太田市立宝泉中学校 1年 新井 勘太
- 124 暑すぎてながれでてくるあせのたきみんなであびるいっぱいのみず
太田市立宝泉中学校 1年 西山 希虎
- 125 夏休み 楽しみあれば 宿題も 早く終わらせ 夏をまんきつ
太田市立宝泉中学校 1年 柳田 和成
- 126 休みの日すごく楽しい夏まつりなんかたのしい日だなあ
太田市立宝泉中学校 1年 梶原 桜
- 127 夏休み 楽しい日々が すぐそこだ でもその日々は いつかは消える
太田市立宝泉中学校 1年 花輪 咲人
- 128 榛名湖で 自然のめぐみの 大切さ 重要な事 今後も生かす
太田市立宝泉中学校 1年 川崎 詩琉
- 129 夏休み家族旅行で海に行く水平線がきれいだったな
埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年 柴崎 亮多
- 130 久しぶり地域の祭り雨で流れ抽選会でくじひくかかり
埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年 柴崎 亮多

- 131 墓参り祖母と一緒に徒歩で行く夏の暑さで疲れが出たな
埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年 柴崎 亮多
- 132 鬱蒼と茂った庭木剪定し床屋へ行った今日軽くする
宮城県クラーク記念国際高等学校仙台キャンパス 3年 横溝 惺哉
- 133 ガーリックフランスのよう君を思う歯磨きしてもにおいは消えぬ
宮城県クラーク記念国際高等学校仙台キャンパス 3年 横溝 惺哉
- 134 花火の音飛んで飛び散り光から時差でくる音ばくはつ音は
山口県光市立浅江小学校 5年 中村 力
- 135 大文字浮きの形で漂ってクラゲはひそかに救助を待つか
山口県山口大学教育学部附属光中学校 1年 横道 玄
- 136 なつやすみともだちと家であそんだらゲームで神引きうれしかったな
太田市立宝泉中学校 1年 亀岡 航明
- 137 新学期 重い足取り 引き連れて 向う教室 皆同じく
太田市立宝泉中学校 2年 田部井 友弥
- 138 朝に合う 人との挨拶 心地よい風 今日始まり 新しい出会い
太田市立宝泉中学校 2年 田部井 友弥
- 139 食欲を そそり始める 秋の日は 家族みんなで 心を満たす
太田市立宝泉中学校 2年 村岡 苺姫
- 140 一日を 大事に過ごし ハッピーに 笑顔あふれる
太田市立宝泉中学校 2年 村岡 苺姫
- 141 枯れた花 心に刺さる その言葉 人の心と つながっている
太田市立宝泉中学校 2年 富澤 綾音
- 142 あきらめず 勝利をつかむ そのものが 試合の中で 一番輝やく
太田市立宝泉中学校 2年 富澤 綾音
- 143 夏休み 大きくひびく 破裂音 涼風が吹く 花火大会
太田市立宝泉中学校 2年 ユシフォンナム
- 144 夏の夜 涼しいと 一緒に 聞こえてくる ずむしの音
太田市立宝泉中学校 2年 ユシフォンナム
- 145 梅雨の日の沈んだ気持ちは大会の負けたときの気持ちと同じ
太田市立宝泉中学校 2年 堀越 奏介
- 146 夏が過ぎ 再び涼しい 季節来る 色づく紅葉 虫たちの声
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 147 夏の夕 橙色に 光る空 鳥が飛び交う ここは故郷
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 148 祭りの日 見上げた炎の 彼岸花 冷えゆく日々を 綺麗に灯す
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 149 夜も冷え せつせと始まる 冬支度 気づけば今年 最後を向かえ
太田市立宝泉中学校 2年 古田 育太
- 150 夏の空セミの鳴き声鳴り響く最後の日までためる宿題
太田市立宝泉中学校 2年 武井 あゆみ
- 151 水たまり今日も明日も雨模様かえるの合唱響きわたる
太田市立宝泉中学校 2年 武井 あゆみ
- 152 人生それは短く長くない一瞬楽しめすぐにおわる
太田市立宝泉中学校 2年 中野 翔太
- 153 デイヘンス裏抜かれてキーパーがペナルティーを飛びだしをする
太田市立宝泉中学校 2年 小島 健
- 154 大会で頑張る俺たち差し置いて声を上げるは保護者顧問
太田市立宝泉中学校 2年 山口 駿介
- 155 くしゃみが出すぎたあのヒノキようふ幾度も夜も眠れぬ騒がしい日々
太田市立宝泉中学校 2年 天笠 慶吾
- 156 曼珠沙華 秋風ともに 赤光る きれいなあまりに 疲れ忘れる
太田市立宝泉中学校 2年 天笠 慶吾

- 169 暑い日に 木の陰で鳴く
アブラゼミ 泣く子も黙る セミの合唱
太田市立宝泉中学校 2年 小林 蒼正
- 168 夏休み 祭りやプールに
行ったけど 課題手につかず 最終日へ
太田市立宝泉中学校 2年 小林 蒼正
- 167 初めての 初雪の日が きらめいて 駆け出していく 冬の弟
太田市立宝泉中学校 2年 梅津 楯
- 166 夏休み 触れ合うひととき
キャンパスに 昨夜の喧嘩を 嫉妬する日々
太田市立宝泉中学校 2年 梅津 楯
- 165 空にある はみ出る夜景
秋の風 乗せつつ回す あなたにあげると
太田市立宝泉中学校 2年 金子 美央里
- 164 雨上がり世界の心繋がれと視界はみ出す七色の虹
太田市立宝泉中学校 2年 金子 美央里
- 163 みなかみの温泉つかり景色見て心癒やされ心満足
太田市立宝泉中学校 2年 金子 美央里
- 162 夏終わり 8月のサウナも 別世界 みな違和感 感じる秋涼し
太田市立宝泉中学校 2年 川岸 夏椰人
- 161 夏の夜 次の季節が まっている 夏の終わりも 秋めいた気配
太田市立宝泉中学校 2年 川岸 夏椰人
- 160 くらやみで三角まどから光もれ玄閼照らすかぼちゃモンスター
太田市立宝泉中学校 2年 森村 心結
- 159 体育祭 定番種目で ひきあてる 気になる人と 書かれたお題
太田市立宝泉中学校 2年 森村 心結
- 158 夏祭りコロナでなくなりさみしいが花火がいろどる私のころ
太田市立宝泉中学校 2年 天笠 慶吾
- 157 せみ時雨 立ちはだかるは 入道雲 それみて騒ぐ せみと我達
太田市立宝泉中学校 2年 天笠 慶吾
- 170 菜の花や 桜の香り 風に乗り うぐいすの声 美しい春
太田市立宝泉中学校 2年 ホダ ナフシン
- 171 夏終わり 耳に響かない せみの声 秋の初風 心地よい
太田市立宝泉中学校 2年 ホダ ナフシン
- 172 授業中 ふと窓見ると 美しき 入道雲 嗚呼夏だ
太田市立宝泉中学校 2年 ホダ ナフシン
- 173 夏の夜静かな所に花火咲きいろとりどりに空へひろがる
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 利乃
- 174 いつもより少し静かなセミの声耳をすませば良く聞こえる
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 利乃
- 175 夏が過ぎ 台風発生 して秋 夜は鈴虫 きれいな音色
太田市立宝泉中学校 2年 相子 大空
- 176 秋の山 緑から赤に 衣替え 山だけ
太田市立宝泉中学校 2年 相子 大空
- 177 行ってきます 笑顔で語り 家の外 愛情こもった 行ってらっしゃい
太田市立宝泉中学校 2年 相子 大空
- 178 梅雨の日に藍色アジサイかざられてばーっといちにち潰れる休日
太田市立宝泉中学校 2年 佐柄 瑠唯
- 179 風にゆれゆっくり進む朝霧が消えたあとには自分が映る
太田市立宝泉中学校 2年 佐柄 瑠唯
- 180 紫の大輪の花水をやる思い出あふれるまばたき一つが
太田市立宝泉中学校 2年 佐柄 瑠唯
- 181 朝起きて白い吐息と白い雪僕にしみこむ昔の思い出
太田市立宝泉中学校 2年 佐柄 瑠唯
- 182 春がおわりそろそろ夏がはじまるよセミが奏でるそんな暑い夏が
太田市立宝泉中学校 2年 根岸 悠登

- 183 果樹園からほのかにかおるオレンジが全てオレンジ色にかがやいている
太田市立宝泉中学校 2年 根岸 悠登
- 184 花畑をふとみるとそこには夕日に照らされた色々な花が全て光っている
太田市立宝泉中学校 2年 根岸 悠登
- 185 せせらぎの 音なる方に 来てみては 小川に滝に 自然なる音
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 186 朝の海 潜ってみては 美しい 透けて見えるよ 美しい青
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 187 ダイビング 青に飛び込み 目に見える 海に差し込む 眩しい光
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 188 秋の夜 夜道を照らす 夜の花 暗闇照らし 輝いている
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 189 冬の夜 子どもの好きな あの日にち 雪が降った日 メリークリスマス
太田市立宝泉中学校 2年 小林 颯芽
- 190 部活後に 家に帰る その途中 ふと空見上げれば 夏の夕日
太田市立宝泉中学校 2年 高田 龍之介
- 191 夏休み 明けたらすぐに テストだと思いいせせずに 長時間睡眠
太田市立宝泉中学校 2年 高田 龍之介
- 192 休みの日 祖母の家に 集まって いとこと一緒に 線香花火
太田市立宝泉中学校 2年 高田 龍之介
- 193 青い空 ながめていると ほっとする夜の空は ちょっぴり怖い
太田市立宝泉中学校 2年 武藤 珠奈
- 194 電車から 見えたあの花 笑っている私もうれしい 皆うれしい
太田市立宝泉中学校 2年 武藤 珠奈
- 195 ギラギラと太陽輝く夏のころセミの鳴き声町にひびく
太田市立宝泉中学校 2年 河野 和輝
- 196 帰り道オレンジ色の空見れば心温まる夕暮れの中
太田市立宝泉中学校 2年 河野 和輝
- 197 夏の頃 ようやく見れる カブトムシ 羽を広げて 飛ぶ瞬間を
太田市立宝泉中学校 2年 稲村 妃菜
- 198 山から見た 広い町と空は 違う日に何度行っても 同じはない
太田市立宝泉中学校 2年 稲村 妃菜
- 199 食べたいな みなかみ町の ダムカレー 道の駅へと さあ出発だ
太田市立宝泉中学校 2年 山口 翔蒼
- 200 月明かり、照らしだすは、野良猫だ、なぜかそこには、美しさあり
太田市立宝泉中学校 2年 関根 大河
- 201 この時だ 今あたっている 気持ちい風風で揺れる木 気持ちい自然の音
太田市立宝泉中学校 2年 ゴルダール カメリア
- 202 七つの色 空にうかぶ虹 きれいだなと思うと イヤなこともなくなつて 心がいやされる
太田市立宝泉中学校 2年 ゴルダール カメリア
- 203 不思議だな ちいさいものが 運んでく おっきいものを 汗かきながら
太田市立宝泉中学校 2年 森 咲空
- 204 夏の夜 窓開け見ると 宝石だ シルネットな木との ツーショット
太田市立宝泉中学校 2年 森 咲空
- 205 戦いだ角一本と角二本 正々堂々 一歩もゆがらず
太田市立宝泉中学校 2年 森 咲空
- 206 暖かい 僕の心と 少し寒い オレンジ色の 秋の夕暮れ
太田市立宝泉中学校 2年 小林 莉奈
- 207 目に映る 君の笑顔と 手のあれた 汗水流す 農家の顔
太田市立宝泉中学校 2年 小林 莉奈
- 208 なにげない 朝のおさんぽが 日常だあと何回 できるかな
太田市立宝泉中学校 2年 小林 莉奈

- 219 早朝の 緑にひびく 鳥のさえずり 見渡す先に 広がる樹林
太田市立宝泉中学校 2年 齋藤 舞
- 218 見上げれば とても大きな 夜の花 暗やみに散る 夏の思い出
太田市立宝泉中学校 2年 齋藤 舞
- 217 そのひとは だいかつやくでゆうしようした
太田市立宝泉中学校 2年 金子 祐大
- 216 たいいくさいに なったしゅんかん いんしようかわる おわつたら
太田市立宝泉中学校 2年 金子 祐大
- 215 ちよつとへらしておくれ
太田市立宝泉中学校 2年 金子 祐大
- 214 なつやすみの しゅくだいおおくて おわらない しゅくだいもう
太田市立宝泉中学校 2年 三吉 れあ
- 213 ヒット打ち馬になりきり走りだす目指すは三つ前のホームベース
太田市立宝泉中学校 2年 三吉 れあ
- 212 夏が来たミーンミーンとうるさいセミの大合唱
太田市立宝泉中学校 2年 三吉 れあ
- 211 ザーザーと音をたてて泣いている雨私の前髪も泣いている
太田市立宝泉中学校 2年 三吉 れあ
- 210 暗い夜、一人で歩く道の中小さな光が淡々と無数の朽草舞いあがる
太田市立宝泉中学校 2年 栗原 千彩
- 209 夏休み 終わったけど 二期期も いろんなことを 楽しくやろう
太田市立宝泉中学校 2年 長嶋 奏人
- 208 生い茂る 緑に囲まれ 一呼吸 おいしい空気が 体を巡る
太田市立宝泉中学校 2年 長嶋 奏人
- 207 夏休み いろんな思い出 残したが まだ続いてくれ 願うだけ無駄
太田市立宝泉中学校 2年 長嶋 奏人
- 220 荒い息 光るまなざし あふれ出る 汗で感じる 仲間の熱気
太田市立宝泉中学校 2年 齋藤 舞
- 221 暗闇の 夜陰を照らす お月さま 皆の心も 照らされる
太田市立宝泉中学校 2年 川島 璃月
- 222 鮮やかに 夜空に轟 爆発音 耳にも残り 心に残る
太田市立宝泉中学校 2年 川島 璃月
- 223 夜の街 高いビル街 ざわめきや 幻想感に 魅せられながら
太田市立宝泉中学校 2年 小谷野 めい
- 224 ミステリを 読んだ自分は 探偵だ 推理ゲームの 始まりだ
太田市立宝泉中学校 2年 小谷野 めい
- 225 風が吹き 落ち葉が舞って 秋の空 紅葉になり きれいな色だ
太田市立宝泉中学校 2年 福島 南々美
- 226 夏の日に ひまわりが咲き 風鈴が リンリン歌い 夏の風影
太田市立宝泉中学校 2年 福島 南々美
- 227 暖かな 日が注ぎ入り 春の風 鳥のささやき 美しい声
太田市立宝泉中学校 2年 福島 南々美
- 228 夏が来て 祭りや花火 一瞬で 終わってしまう あふれる想い
太田市立宝泉中学校 2年 ボゴック エンニイ
- 229 夏の夜 虫が奏でる 音楽で 町のみんなが 魅了される
太田市立宝泉中学校 2年 飯野 碧
- 230 夏休み 友達と遊ぶ 毎日であつというまに 進む時間
太田市立宝泉中学校 2年 飯野 碧
- 231 人とは何か 地球からすると どうなのか
太田市立宝泉中学校 2年 梁井 春汰
- 232 夏の夜 暑さにたえず 思うのは 一人で涼む 静かな砂浜
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 野々華

- 233 不思議だな みんなで食べる ご飯には 笑顔あふれる 魔法の時間
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 野々華
- 234 ろてんぶろふとった三人がはいりきてほとんどぬける温泉のお湯
太田市立宝泉中学校 2年 井田 空来
- 235 夕暮れに 外をのぞけば 空いっぱい 鮮やかな色 心が躍る
太田市立宝泉中学校 2年 原田 心雪
- 236 人のむれ くらぎ頭が さまようなか きょうもさがすよ うんめいの人
太田市立宝泉中学校 2年 竹政 琉稀
- 237 自由求め たびたつ者は たびびとに かしそれでは 自由にとらわれん
太田市立宝泉中学校 2年 竹政 琉稀
- 238 バイト先 鬼なチーフに シフト表 週七入る 悲しき兄貴
太田市立宝泉中学校 2年 竹政 琉稀
- 239 テスト前 一番眠い 夜十時 もうあきらめて ゲーム三昧
太田市立宝泉中学校 2年 山西 祐真
- 240 給食で 定期的に出る ブロッコリー 何度食べても のどを通らぬ
太田市立宝泉中学校 2年 山西 祐真
- 241 くらやみに きれいな花火 咲いている 見上げていきたい このままずっと
太田市立宝泉中学校 2年 矢島 菜月
- 242 宿題を 継続させて 出せてなく 先生の頭に 角生える
太田市立宝泉中学校 2年 鈴木 響太
- 243 バレエ後に ほめてもらえた 先生に嬉しいな やる気が出る 帰り道の事
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 颯
- 244 夏の夜 セミの鳴き声 ききながら 食べるやきにく 夏をかんじる
太田市立宝泉中学校 2年 小林 珠奈
- 245 部活動 市大会で 勝つために 努力し続け めげせ上位
太田市立宝泉中学校 2年 小林 珠奈
- 246 夏休み たくさん遊べて 楽しいな あれれ課題が 一つも終わらない
太田市立宝泉中学校 2年 藤 掛 僚
- 247 夏休み 水鉄砲を 当てられて 日がくれているも、まだまだ遊ぶ。
太田市立宝泉中学校 2年 青木 耀生
- 248 美しい あの空舞う シャボン玉 子供の頃を 思い出させる
太田市立宝泉中学校 2年 青木 耀生
- 249 子供達 楽しそうに あそんでる はやりの病気 せきがとまらん
太田市立宝泉中学校 2年 青木 耀生
- 250 夕暮れの静かに沈む太陽につられて我の心も沈む
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 莉里愛
- 251 雨あがり道には水たまり空には虹いつもとちがう不思議な世界
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 莉里愛
- 252 風景画わざとちがった色にする自由に描いて表現する
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 莉里愛
- 253 人生の 予測できない 幸福のこと 塞翁が馬
太田市立宝泉中学校 2年 岩佐 知春
- 254 ホテルはね 時間が過ぎて 開閉する 荷物落きつぱ どうしようか
太田市立宝泉中学校 2年 岩佐 知春
- 255 旅行でね 観光バスが 強盗に ジャックされる 終わったわ。
太田市立宝泉中学校 2年 岩佐 知春
- 256 宇宙に うかんでいる わく星が ブラックホールに すい込まれる
太田市立宝泉中学校 2年 岩佐 知春
- 257 寝ころがりたたみで大の字どうどうとその後セミの声鳴り響くのが5分間
太田市立宝泉中学校 2年 徳山 雅璃
- 258 私が好き する事山盛り 好きな時季それは紅葉の秋 景色絶頂の時季
太田市立宝泉中学校 2年 徳山 雅璃

- 271 花火見て ふと黙りこむ 絶景に ぼくと君との 十分間 太田市立宝泉中学校 2年 櫻木 雅人
- 270 あきらめない 俺は短歌を 作るんだ 目に入り込んだ 幼葉がたくさん 太田市立宝泉中学校 2年 櫻木 雅人
- 269 夏の夜 友達と遊び する花火 きれいな色が とびちる夏休み 太田市立宝泉中学校 2年 大久保 ことみ
- 268 一日中 あの人のこと 考えて ああ会いたいな 頭が痛くなるくらい 太田市立宝泉中学校 2年 大久保 ことみ
- 267 最下位全員抜かしなる一位 そこで目覚めた夢のリレー 太田市立宝泉中学校 2年 森田 絆奈
- 266 逃げまわる 今日が終わればもう平気一匹で走るお祭りの夜 太田市立宝泉中学校 2年 森田 絆奈
- 265 雪降ると道路のすみに雪だるま心あたたまる小さな思い出 太田市立宝泉中学校 2年 森下 菜央
- 264 ジリジリと鳴くセミの声聞きながら風鈴の音涼しいな 太田市立宝泉中学校 2年 森下 菜央
- 263 広縁に座って食べるかき氷舌を見せあい笑いあう 太田市立宝泉中学校 2年 森下 菜央
- 262 秋晴れの下で見とれる秋色の紅葉を君と楽しんだ 太田市立宝泉中学校 2年 森下 菜央
- 261 夏の朝今から部活頑張ろう目指せ決勝 太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 空良
- 260 大空に鳴り響く音夏の夜空に咲いたのは大きな花 太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 空良
- 259 おり紙で作ってみたい夏の虫カブトムシゲンジボタルオニヤンマトンボ 太田市立宝泉中学校 2年 清水 偉心
- 272 紅葉の 季節になると もみじ狩り 葉をかき集め たき火する 太田市立宝泉中学校 2年 渡邊 穂乃華
- 273 夏の夜 窓を開ければ 聞こえてくる 夜のカエルの 大合唱 太田市立宝泉中学校 2年 関口 睦稀
- 274 テスト前 課題終わらず あきらめる 開き直って 徹夜でゲーム 太田市立宝泉中学校 2年 関口 睦稀
- 275 夏の夜 花火大会 君と見た あれナトリウム それバリウム 太田市立宝泉中学校 2年 関口 睦稀
- 276 窓の外 ポトポトと降る 雨の音 カエルの声と 重なる音色 太田市立宝泉中学校 2年 藤井 淳人
- 277 夏休み キャンプに行くと アブがいて 黒い服だと 攻撃される 太田市立宝泉中学校 2年 藤井 淳人
- 278 春夏秋冬 日々一生懸命 過ごす体育館 チームメイトと 過ぎる時間 太田市立宝泉中学校 2年 対比地 葉南
- 279 雪が降る昼に家族で過ごす宿 宿探検したあと 母と入る温泉 心まであたたまる 太田市立宝泉中学校 2年 対比地 葉南
- 280 夏の時 おいしいものを 食べまくる 太田市立宝泉中学校 2年 下手 麻由実
- 281 暑い中 毎日練習 キツイけど 全国目指し 諦めない 太田市立宝泉中学校 2年 三田 遼琥
- 282 白い山 キラキラ光る 粉雪で 気づいたときには 雪だらけの僕 太田市立宝泉中学校 2年 三田 遼琥
- 283 青空に モンシロチョウが ひらひらと おいかけてっこを しているようだ 太田市立宝泉中学校 2年 岡 夢乃
- 284 風の音 感じさせるのは ふうりんで キレイな音で踊ってる 太田市立宝泉中学校 2年 鯉沼 音羽

- 285 夏休み 楽しく遊ぶ キャンプでね ご飯もおいしく いただきます
太田市立宝泉中学校 2年 鯉沼 音羽
- 286 夏祭り友達と見たきれいな花火暑さもふきとぶ一瞬の楽しさ
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 萌依未
- 287 キャンプ場家族と遊んだ夏の海虫は最悪景色は最高
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 萌依未
- 288 友達と東京観光きれいな夜景たくさん買い物夏の思い出
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 萌依未
- 289 開会式 スマホみながら お喋りし 顧問登場 没収される
太田市立宝泉中学校 2年 庄司 莉愛
- 290 県大会 寝坊と渋滞 重なって 二日連続 遅刻した
太田市立宝泉中学校 2年 庄司 莉愛
- 291 新田祭り 真也登場
太田市立宝泉中学校 2年 庄司 莉愛
- 292 友達と待ち合わせしてボーリング ハイスコアが出て大喜び
太田市立宝泉中学校 2年 田部井 元暉
- 293 夏休み 宿題終わらず 最終日 決断したこと 今日はてつやか
太田市立宝泉中学校 2年 眞下 和彦
- 294 コロナ中 マスクありの4年間 行事がなくなり 思い出消える
太田市立宝泉中学校 2年 眞下 和彦
- 295 夏休み花火大会満喫したたくさん楽しんだサマーバケーション
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 衣琳
- 296 徒競走一位目指してがんばった運動会の楽しい思い出
太田市立宝泉中学校 2年 荒木 衣琳
- 297 あの夜空眺めるたびに思い出すあの日の思い出もうもどらない
太田市立宝泉中学校 2年 相澤 優月
- 298 夏の色そらに咲く花
太田市立宝泉中学校 2年 相澤 優月
- 299 ツイッターインスタグラムユーチューブティックは楽しいアプリ
太田市立宝泉中学校 2年 正田 未来
- 300 青い鳥達が みんな仲良く 羽広げ 山や川をわたり 数年ぶりの大移動
太田市立宝泉中学校 2年 角 田
- 301 夏休みはじまりすぐにケガをして病気になるのは散々な日々
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 302 もうしょ日の外はあつくてたえられん家に入ってねるのが定期
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 303 食の秋食べることだけ全力で忘れてしまうスポーツの秋
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 304 夏の夜にきらきら光る星たちが海の水面照らしてる
太田市立宝泉中学校 2年 田辺 陸人
- 305 青春のページには学校が友達無しの苦しい思い出
太田市立宝泉中学校 2年 吉野 遥風
- 306 春の風植物ゆらす春の風菜の花もゆれる黄のじゅうたん
太田市立宝泉中学校 2年 山崎 湊人
- 307 夏の夜虫の合唱鳴り響き星空の下手持ち花火
太田市立宝泉中学校 2年 長沼 亜胡
- 308 夏休み みんななかよく プールでねはじまっちゃうよ 流れるプール
太田市立宝泉中学校 2年 徳田 輝空
- 309 冬の夜 雪ふるけしき 美しく 頭に落ちるはきれいな雪だ
太田市立宝泉中学校 2年 徳田 輝空
- 310 こうえんで えがおであそぶ かわいい妹 となりであそぶ 小さいおとうと
太田市立宝泉中学校 2年 小川 心優

- 323 夏休み課題終わらずおあせりいそぐ景色見慣れた夏
太田市立宝泉中学校 2年 梶田 海司
- 322 初夏の夜月が表れ森の奥うす暗くなり桜散り吹く
太田市立宝泉中学校 2年 谷中 陽万莉
- 321 召喚すブラックドラゴン我の手で ふういんされしま法じんから
太田市立宝泉中学校 2年 大野 幹太
- 320 右手からときはなたれしこの力呼び覚ますのは先代魔王
太田市立宝泉中学校 2年 福田 昂介
- 319 私と姉小さいころはよくけんか大きくなって仲深まる。
太田市立宝泉中学校 2年 寺井 咲愛
- 318 夏休み その文字見ると それだけで 心はずぐに ウッキウキする
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 恵太
- 317 夏の夕暮れ 雲と夕日が 造り出す オレンジの空 美しきかな
太田市立宝泉中学校 2年 加藤 美姫
- 316 空と海 空の顔色 うかがいて 美しき世を 映しだす海
太田市立宝泉中学校 2年 加藤 美姫
- 315 蟬しぐれ あの日思い出し 駆けめぐる 青き若葉と 大きく成長
太田市立宝泉中学校 2年 加藤 美姫
- 314 冬になると
太田市立宝泉中学校 2年 津久井 友駕
- 313 夏休みにはみんなで遊び楽しんで最終日になると夜遅くまで宿題
太田市立宝泉中学校 2年 津久井 友駕
- 312 ゆうやけが きれいな夏の日 私ひとりではしの上で見る さみしい夏の日
太田市立宝泉中学校 2年 小川 心優
- 311 夏の熱い日 かき氷を作って 口にいられて たくさんたべて 頭がいたい自分
太田市立宝泉中学校 2年 小川 心優
- 324 暑い夏部活も困難大変だ家に帰ると涼しくなるな
太田市立宝泉中学校 2年 梶田 海司
- 325 また一つ うみのけしき なつかしく思い出かたり 今もう一度
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 心美
- 326 雨が降り しずくがたれて うつりゆく 光が反射 これぞうつくしき
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 心美
- 327 夏休み 思い出づくり いそがしく 楽しみが増え 今もうすぎた
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 心美
- 328 最終日 泣きつつ取り組む 感想文 カフェイン飲み込む あの夜の夏
太田市立宝泉中学校 2年 関 聡太
- 329 コロナ中 絶望しながら リモート授業 カメラオフにし 遊ぶなり
太田市立宝泉中学校 2年 関 聡太
- 330 イベントに 推しが出てきて 大きわぎ 止まらんみだ 止まないかんせい
太田市立宝泉中学校 2年 笹川 穂香
- 331 日曜日 一人カラオケ 楽しいな デュエットできず 一人二役
太田市立宝泉中学校 2年 笹川 穂香
- 332 イベントで グッズが売られ 買いまくる 消えるざいさん 増えるグッズ
太田市立宝泉中学校 2年 笹川 穂香
- 333 金の音 私の耳にひびく 五百円 とろうとしても とどかぬおもい
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 334 公園で 自転車走らせ楽しきと 頭の上止まる 野生のカモさん
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 335 夏休み家の中で 休みなり 父母が言ふ かだいやれよとめんどくさきかな
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 336 やきにくで 白いTシャツ よごしたり 文句を言うても 時にはおそし
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち

- 337 シャープペン 自分の足に 落としけに 団地にひびく大ぜつきょう
太田市立宝泉中学校 2年 稲垣 よいち
- 338 人生は物語 あなたの物語は どう作る？
太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香
- 339 夏になり 引退試合で 思い出す 部員と過ごした 楽しき日々を
太田市立宝泉中学校 3年 青木 優翔
- 340 部活やめ 勉強時間ができたけど 理由をつくり 結局やらす
太田市立宝泉中学校 3年 青木 優翔
- 341 いつも通り早く起きて今日は学校ないと気づき二度寝した夏休み初日
太田市立宝泉中学校 3年 今井 優羽
- 342 走り終わっても出てくる滝のような汗その度に思うんだ頑張つてよかったと
太田市立宝泉中学校 3年 今井 優羽
- 343 祖父と行った久しぶりの平日ランチ。びっくりしたよ。ここにもロボットが。
太田市立宝泉中学校 3年 今井 優羽
- 344 静けさに包まれ聞こえるあの声は記憶に残るひぐらしの声
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 345 あと少しもう少しだけ待ってればようやく終わる学校生活
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 346 窓辺から浮き沈みする光みて共に眺める防犯カメラ
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 347 春色の衣をまとう利根川はいつも変わらず癒しを流す
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 348 最後の日あいも変わらず残しもの言われてやるも進まぬ手
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 飯塚 ひなの
- 349 そよそよと風がしゃべると教えるよ暗くなると雨が近いかな
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 350 絵のようなグラデーシヨンの景色かなゼリーののような青春が来る
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 351 ふわふわと髪がゆれては解いかける甘酸っぱいと春が近づく
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 352 カリカリと手がすらすらと動く指字がうまる鉛筆
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 353 透明の光輝く宝石の世界の宝美しいしづく
利根沼田学校組合立利根商業高等学校 3年 小野 つゆき
- 354 誕生日のプレゼント選びいい気分楽しみとまらず待ちどうしいな
山口県光市立島田小学校 3年 植村 果乃子
- 355 サッカーボールはければけるほどどうまくなる努力を重ねやりつづけたい
山口県光市立島田小学校 6年 本浦 幸羽
- 356 好きな曲アンフォォーギブン最高だライブチケット当たらず見逃す
山口県光市立島田小学校 6年 松 本 彩
- 357 平日も道路でスケボーたのしいな休みもスケボーうまくなりたいな
山口県光市立島田小学校 6年 杉山 風翔
- 358 宿題をやる前にたまに見てしまふそれは大好きなアニメのことだ
山口県光市立島田小学校 6年 高里 愛莉
- 359 休みの日は好きな絵を描くその絵にはユーチューバーのあまかみこのみ
山口県光市立島田小学校 6年 久保田 流唯
- 360 授業中暑すぎ注意たおれそうエアコンのかぜしらんぷりする
山口県光市立島田小学校 6年 小西 莉夢
- 361 平日の学校はいやだもういやだ宿題もらういやな場所だよ
山口県光市立島田小学校 6年 池間 悠介
- 362 たのしみなしゆうがくりようおみやげは何をかおうかまよつてるじぶん
山口県光市立島田小学校 6年 右田 裕己

- 375 秋の夜楽しく奏でる虫の音優しく見守る大きな満月と
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 真庭 直也
- 374 大文字浮きの形で漂ってクラゲはひそかに救助を待つか
山口大学教育学部付属光中学校 1年 横 道 玄
- 373 とび箱をとぶよトーンつととべたならスツキリとてもいい気持ちだな
山口県光市立島田小学校 5年 石田 椰由
- 372 最近の前がみなかくてイラつくよでもイラつくのはよくないことね
山口県光市立島田小学校 5年 中村 結菜
- 371 夏休みに四回食べたバーベキュー夏休みあげ体重ふえる
山口県光市立島田小学校 5年 羽嶋 望華
- 370 じろじろと先生をみてスープのむ先生の席のまん前のわたし
山口県光市立島田小学校 5年 児島 ゆな
- 369 うるさいないつもビービーないてるそのお名前はおにぎりマサオ
山口県光市立島田小学校 5年 杉本 幸星
- 368 夏になり帰ってきたなムカデさんねるときにきた顔にムカデが
山口県光市立島田小学校 6年 長原 毘寧
- 367 習い事のたいこをたたき音ならし音もつながり心つながる
山口県光市立島田小学校 6年 山本 莉愛
- 366 将来は伝説キーパー目標はドイツ代表ノイヤー選手
山口県光市立島田小学校 6年 柏木 瑛志
- 365 家帰りソッコーエアコンつけたあとアイスを食べたなら寒くなりすぎ
山口県光市立島田小学校 6年 原井 晴希
- 364 固形のりまちがえて買い返品をしようかどうか迷ってしまおう
山口県光市立島田小学校 6年 弘中 冨多朗
- 363 夏休みの楽しい旅行暑すぎて店の中入りもう動けない
山口県光市立島田小学校 6年 西原 海人
- 376 目標を 高く設定 挑む試合 勇往邁進 全中への道
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金井 愛莉
- 377 夏休み 卓球づけ 休まない すぐつかれる いい思い出だ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 瑠花
- 378 夏休み 毎日遊び 気が付くと 終わっていない 課題山積み
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 中村 沙羅
- 379 夏休み 卓球ざんまい つかれたよ 来年はもつと 休みたい
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 石原 苺奈
- 380 夏の朝 うるさいくらい 虫の音が 悲しく感じる 十三の夏
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 井上 史遠
- 381 太陽が登ってきたら鳥の声聞こえてくると目が覚める人
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 山本 武瑠
- 382 夏の風消しカス見つけて夢の中宿題なんて終わってないよ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 音羽
- 383 あと一点あと一点と願いにぎるバット三振夏の風
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 音羽
- 384 みなかみの きれいな自然 囲まれて 多くの虫が 鳴き声を出す
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 輪
- 385 目を細め見上げてみれば太陽と空に広がる入道雲
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 結愛
- 386 美しき桜の花 もう散ったと思えば 夏が来る
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 星 野 倭
- 387 この瞬間このひとときが最高の癒しの時間昼寝の時間
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 瀧澤 優羽
- 388 部活動チームメイトと高め合う目標は同じ勝利のために
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 大谷 苺花

- 389 待ちどおしい夜空に光るホテル達ながめながらの親子の散歩
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 朱莉
- 390 この残暑 いつにも増して 恋しく思う ひざまで積もる 降りしきる雪
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 里瑚
- 391 富士山の 山頂から見た あの景色 ぼくが日本で 一番高い
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 大義
- 392 熱気と汗コートを漂う緊張感仲間と共に闘い続ける
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 服部 陽向
- 393 夏休み 来年はもう 受験生 今しかできない 全力を
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 芳賀 衣織
- 394 自己ベスト 出すために 毎日取り組み 記録を更新
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西村 悠真
- 395 夏休み 計画通り いくわけない 明日はやろう がんばれ私
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高柳 愛琉
- 396 空見れば蛍が多く飛んでいるそんな夏が大好きだ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 希羽
- 397 夏休みセミが鳴くとき上を見るそしたらほらね青い空ある
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 清水 杏
- 398 おはようとあいさつすればみんながね笑顔になれる魔法の言葉
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 小林 愛翔
- 399 自己ベスト 新たな記録に大興奮新たな自分に 頑張った自分にごほうびだ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 片野 湊
- 400 みなかみ町虫がたくさんいる夏いやな虫もきれいな虫も
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 生方 凜空
- 401 部活動 日に焼けた肌で 立つそこは 猛暑の中の テニスコート
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 内山 暁
- 402 始まった ずっと待ってた 夏休み 遊び倒せ 心ゆくまで
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 石井 小晴
- 403 「どんなのがいいかなあ」短歌書くときのぼくの口癖
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 快斗
- 404 夏休みあつという間にもう終わりあと何日だ宿題まだだ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 405 ネイマールさぼったときの名言があいつが上手になるときという
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 406 先輩の引退惜しむ今年夏来年の今もつとさみしい
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 407 スランプは乗り越えた先強くなる通り道だと強く心に
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 408 翔んでゆけボールは高く舞い上がれ夢と希望も心にのせて
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 颯汰
- 409 夏休み 目覚ましよりも早く起き、今日は何をしようか 心が踊る
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 今井 智也
- 410 楽しみは祖母の手作り浴衣着て家族みんなで祭り行く時
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 小野 李桜
- 411 夏休み 今日部活 変わらぬ暑さに 長く感じる 帰り道
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金井 陸
- 412 夏夜空 かがやく月と星よりも みんなの目をひく 光の花が
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金子 すず
- 413 夏休みたのしいことがたくさんがそうだけどみじかい休み
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 杉木 珀飛
- 414 明日への夢は大きく白球の目指す先には全国大会
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 璃心

- 427 向日葵に 映えるセミの音 ヒグラシよ 長く続かない 夏の終わりだ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 瀧澤 香心
- 426 「本屋って住めないかしら」「かたんよあなたが本屋になればいいのよ」
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 坂大 穂典
- 425 欲しかった三冊の本金額はサイフの2倍固まる手元
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 坂大 穂典
- 424 つくつてよ あたまいひと 「暗記ペン」「コンピューターペンシル」でもいいよ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 坂大 穂典
- 423 夏休み 調子乗ったら 最終日 宿題やばい もうあきらめた
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 横坂 優奈
- 422 みなかみは自然豊かな山と川町の人などとても気持ちがいい所
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 金古 希愛々
- 421 夏祭り今年も彼氏と行く予定でも彼氏いないどうしよう
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 正宗
- 420 夏祭り友達と共に練り歩き全く当たらず出店のくじ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原 希継
- 419 セミが鳴く友達と行く夏祭り口に広がるおいしい焼きそば
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 馬場 亜優奈
- 418 社会科を マスターしよう 刀狩り 参勤交代 よし休憩
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 畠山 空
- 417 夏休み冷たい川へ飛び込むとききれいな魚見つめてきてる
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 瀧澤 葵
- 416 部活後に近所の友に誘われて行った川で飛び込む楽しみ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 絆
- 415 スイカ割り大きいスイカを棒で割る赤い実の中種がぼつぼつ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 絆
- 440 夏休み家の帰りにセミの声明るくなるぼく的心
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 圭杜
- 439 夏休み いつもの時間と いつもの日に 僕は全力で 野球をする
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 本多 菜翔
- 438 走りこみ まだまだいくよ 上毛高原に でもやだな また走る
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 颯太
- 437 青くかがやく夏の空 すずしい風が心地良く 少しさみしい 夏の終わり
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 西山 智彩
- 436 横に見ゆるは緑々の木々 私はそれを横に今日も勉強をする。
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 岡村 洋杜
- 435 伝えたい 七十五億にただ一人 一期一会の出会えた奇跡
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 大川 千咲
- 434 夏休みあつという間に過ぎる日々終わりの見えぬ夏の宿題
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 松原 太郎
- 433 さんぼ中 あいさつくれる おばあさん 暖かい声 気持ちよい心
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 櫻井 道治
- 432 夏休み 前半遊び 宿題が 多くてあせる 後半戦
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 平澤 新太
- 431 いつまでも愛は届くさあいことは 生きていることは生きている証
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 鈴木 心美
- 430 僕の色 みんなの色 全部混ぜ 作っていける 人のつながり
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 宮嶋 珠里
- 429 夏盛り家族で挑む白根山 汗水流し下界見下ろす
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 佐藤 叶騎
- 428 みなかみの 緑豊かな 自然界 他の県より とってもきれいな
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 赤石 瑞樹

- 441 日に照らされて 暑い夏 川に行くと すきとおる風
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 中村 心花
- 442 みなかみ町山も川も自然もすべてきれいな町みんなが愛しい町
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 原澤 睦弥
- 443 眠る時 カエルの声のこもり歌 今日ほどんな夢を見れるの
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 444 きたないとみんなに言われるこの字でも だれかのところに 響いていたら
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 445 人のことみんなのことを思いやる その気持ちだけこの気持ちだけ
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 446 ぼくたちは無限の可能性を持ち来未に進む りそうをかかげぼくらは歩む
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 447 なにもないなんら変わらぬその日常 ただそれこそがないよりとうとい
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 河合 織叶
- 448 紅葉狩り地面を見ると赤景色それはまるで赤の絨毯
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 紫苑
- 449 秋なのに冷たい風が吹いてくる冬の支度をすぐに始める
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 紫苑
- 450 私のね 心がついに 崩壊し その心もって もちきれない
群馬県立沼田高校 1年 村岡 直尚
- 451 はじまりは 私の勉強 長時間 そこで初まる さんづけ生活
群馬県立沼田高校 1年 村岡 直尚
- 452 どんなにも どんなにしても できない知 この知考して できない知
群馬県立沼田高校 1年 村岡 直尚
- 453 強すぎる スマホの悪魔 倒せずに 机に向かえず スマホに向かう
群馬県立沼田高校 1年 井上 彰了
- 454 暇な昼 妹誘い バドミントン 夕日も消えて 羽が見えない
群馬県立沼田高校 1年 井上 彰了
- 455 秋晴れで、夏日のような気温には、季節の変わり目 感じなくする
群馬県立沼田高校 1年 久保田 嵐
- 456 多様性 もっと日本も 認め合い 平和な世界 作ってみよう
群馬県立沼田高校 1年 青木 蔵菜
- 457 高校生 あと少しで 二年生 前の自分より 進化がしたい
群馬県立沼田高校 1年 青木 祐太
- 458 こんにちはは右左見てわたろうね 信号赤はわたっちゃだめだよ
群馬県立沼田高校 1年 小川 直周
- 459 先輩の 背中追いかけて また今日も ゴールを目指す 汗を流して
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 滉太
- 460 テスト期間 終わる時の 開放感 そこからオールで 友とゲームする
群馬県立沼田高校 1年 乗原 翔太
- 461 月明かり 照らされ浮かぶ 影模様 偶然それが うさぎの形
群馬県立沼田高校 1年 乗原 翔太
- 462 グラウンド みんなで朝練 きついで 来年こそは 夢の舞台へ
群馬県立沼田高校 1年 堤 彪 雅
- 463 山川の 恵みを受ける 川場村 武尊の山は 明日を照らす
群馬県立沼田高校 1年 高橋 晃介
- 464 青空の 下で追いかける 白球は 今日もまた 夢を破らす
群馬県立沼田高校 1年 大河原 悠翔
- 465 ライオンズ FA流出 とまらない もうもどれない 山賊打線
群馬県立沼田高校 1年 大河原 悠翔
- 466 実装を 待つ時長く 引く際は 過ぎる時短く とてもうれしい
群馬県立沼田高校 1年 阿部 蒼士

- 479 油断した ページをめくる その隙に 紙で切った 指が泣く
群馬県立沼田高校 1年 矢野目 陸
- 478 長距離 走りに走る だがしかし 結果は伸びず 苦しむばかり
群馬県立沼田高校 1年 西方 颯茉
- 477 そよ風に吹かれて香る金木犀甘い香りで心とらぐ
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 紫苑
- 476 夏終わり秋近づいて肌寒くしだいに増えてく長袖シャツ。
群馬県立沼田高校 1年 青木 瞭
- 475 秋風で赤き紅葉の落葉舞うそれが伝える冬の訪れ
群馬県立沼田高校 1年 金子 昂生
- 474 帰り際 夕日を浴びて 帰る日々 部活の帰りは 凍える夜
群馬県立沼田高校 1年 荒木 遙翔
- 473 したいこと サッカーゲーム ユーチューブ したくないこと テスト勉強
群馬県立沼田高校 1年 林 優太
- 472 授業中 チョークの音が 鳴り響く 個々が頑張る夢に向かって
群馬県立沼田高校 1年 荻原 暁汰
- 471 雨の音やどこまで盗む熟練の儂く遠いあなたの隣
群馬県立沼田高校 1年 町田 翔人
- 470 じゃあまたと赤じそ色に秋の空にみんなの木星やさしさ残る
群馬県立沼田高校 1年 小林 遼汰
- 469 思い出す あの日の午後で 変わった日 君はいないな 忘れなくなる
群馬県立沼田高校 1年 関 陸 治
- 468 多様性 賛否両道 現社会 理解するのが いちばん大事
群馬県立沼田高校 1年 関 陸 治
- 467 山登り疲れて登れば景色あり今見る景色焼きつけよう
群馬県立沼田高校 1年 深津 唯斗
- 492 暗けれど げに美しき 月来香 霜に消えにし 我が想ひかな
群馬県立沼田高校 1年 新井 健介
- 491 部活動 バドミントンも しているが 結構キツイ スポーツだった
群馬県立沼田高校 1年 高橋 郁成
- 490 紡ぎ出す極彩色の言葉にて色づく明日を何度でも
群馬県立沼田高校 1年 星野 風雅
- 489 秋の朝弾ける友の足の音その足どければわくさがぼろり
群馬県立沼田高校 1年 西形 颯茉
- 488 帰り道好きな曲聴く一人の時間瞬きすれば世界が変わる
群馬県立沼田高校 1年 能登 慶士
- 487 火曜日のトレーニングで力がつく強くなるってとても気持ちいい
群馬県立沼田高校 1年 大村 健太
- 486 練習で 強くなるって 気持ちいい という言葉を 友が言っていた
群馬県立沼田高校 1年 入澤 佑太
- 485 テスト前 みんなで勉強 ちゃんとする 決めたはずなのに ボール遊び
群馬県立沼田高校 1年 星野 裕飛
- 484 競い合い戦い抜いたその先はそして誰もいなくなった
群馬県立沼田高校 1年 茂木 文壱
- 483 休日起きては寝て気づいたら十時になりシヨックだった
群馬県立沼田高校 1年 茂木 文壱
- 482 朝起きてアラーム鳴って寒いけどふとんから出てストーブつける
群馬県立沼田高校 1年 矢野目 陸
- 481 油断した ページをめくる その隙に 紙で切った！ 指が泣く
群馬県立沼田高校 1年 矢野目 陸
- 480 油断した テストをめくる その隙に 紙で切った 指が泣く
群馬県立沼田高校 1年 矢野目 陸

- 493 空の上飛び舞う鳥と私の差はまるで思う君と会えぬときかな
群馬県立沼田高校 1年 萩原 伊吹
- 494 初めての高校での模試舐めていたもうこれ以上点落とせない
群馬県立沼田高校 1年 齋藤 駿太
- 495 枯葉舞う水面に映る我が校舎秋を誘ふ風に吹かれて
群馬県立沼田高校 1年 深津 優慎
- 496 心から夢見求めしあの姿得られず悲しみ数字は消えゆ
群馬県立沼田高校 1年 深津 優慎
- 497 学び舎の 響く鐘の音 聞きし時 みなぎる力 睡魔に勝る
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 陽太
- 498 我が右手 筆に宿りし この力 私一人では 抑えきれぬ
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 陽太
- 499 こんにちは 故郷ならば 返されて ビル建つ町は 返されず
群馬県立沼田高校 1年 鈴木 陽太
- 500 秋風の 中を流れる 流れ星 星に願う 彼女欲しい
群馬県立沼田高校 1年 北原 由翔
- 501 「お前今日何したんだよ」、聞こえてくる テスト前日にスマホから
群馬県立沼田高校 1年 高橋 良輔
- 502 時に本気 時に妥協 のんびり行きましょう 我が人生
群馬県立沼田高校 1年 木村 友昭
- 503 紅いのと 緑が混ざる 十月の日 儂く消えゆく 秋の境目
群馬県立沼田高校 1年 杉木 蒼月
- 504 初の海 心踊らせ 乗る車 楽しかったなあ あの頃は
群馬県立沼田高校 1年 奈良 諒馬
- 505 新しい友人たちと高校だまだ見ぬ世界を満喫中
群馬県立沼田高校 1年 久保田 侑太
- 506 通学時いつも目にするかわいい子いつか隣にいてみたいなあ
群馬県立沼田高校 1年 久保田 侑太
- 507 旧友と再び会って語る夜思い出すのはあの日の青春
群馬県立沼田高校 1年 角田 蔵乃助
- 508 山登り足並み揃えぐんぐんと登頂すればそこにはなにが
群馬県立沼田高校 1年 渡辺 拓摩
- 509 夕暮れに赤く染まった小魚は 下流に下る紅葉のごとし
群馬県立沼田高校 1年 富澤 優介
- 510 赤黄緑 落ち葉が色どる 滝坂を 友と登る 青春の秋
群馬県立沼田高校 1年 林 悠斗
- 511 朝日見て 心を洗う 秋の朝 今日も一日 さあがんばろう
群馬県立沼田高校 1年 竹沢 明日
- 512 かけた日の二人並んだ帰り道一人胸張る一本道
群馬県立沼田高校 1年 小野塚 央樹
- 513 二人の姿まっすぐ伸びた長い影ゆれる落葉強くつかまる
群馬県立沼田高校 1年 小野塚 央樹
- 514 大会後帰りの電車単語帳開いてみるも秒で睡眠
群馬県立沼田高校 1年 富澤 遼紀
- 515 帰り道雨に打たれてズブ濡れにさっきコンビニ寄らずに帰れば…
群馬県立沼田高校 1年 富澤 遼紀
- 516 水曜日週の真ん中疲れたな短縮授業でやる気復活
群馬県立沼田高校 1年 富澤 遼紀
- 517 三角比サインコサインタンジェント覚えてまた繰り返す
群馬県立沼田高校 1年 富澤 遼紀
- 518 下校中 夕日に照らされ ふと気づく 地面にうつる 父の姿
群馬県立沼田高校 1年 横山 知史

557	もうやめてテストに部活模試勉強私のライフはもう既にゼロ	群馬県立沼田高校 2年 笠井 琉雅
558	快晴の部活帰りの月見月信号待ちでどんと構える	群馬県立沼田高校 2年 笠井 琉雅
559	いき詰まり雫滴るあの夏はどこへ行ったか澄む青空に	群馬県立沼田高校 2年 角田 丈
560	通知音揺れるポッケと汗垂れる歩くと見える「空きれいだなあ」	群馬県立沼田高校 2年 宮田 大
561	缶コツンコロコロ変わる君の顔 やり返されて首をさする	群馬県立沼田高校 2年 宮田 大
562	止まらない 胸の鼓動が 止まらない 包む声援 輝く未来	群馬県立沼田高校 2年 小澤 蔵馬
563	冬休み予定も立てず寝続ける課題に気づき戻らぬ時間	群馬県立沼田高校 2年 小林 怜雄
564	初雪で冬を感じる窓の外白銀の野に足跡刻む	群馬県立沼田高校 2年 古澤 颯人
565	こんにちは やはり年配 耳遠い もう一度言うも 見向きもされず	群馬県立沼田高校 2年 吉野 太智
566	別れ際 ちょっと待ってと 何事か 淡い期待も あえなく撃沈	群馬県立沼田高校 2年 吉野 太智
567	冬来たり 峰は吹雪に 覆われて 心は寒き 孤独の夜よ	群馬県立沼田高校 2年 片上 悠磨
568	春風が 樹木をゆらし 桜散る 舞い散っていく 自由な旅へ	群馬県立沼田高校 2年 猪熊 光我
569	冬の夜皆で集まり星を見るいつにもましてきれいな星空	群馬県立沼田高校 2年 戸丸 暖希
570	部活動 苦しんだ人強くなり 頑張った先優勝がある。	群馬県立沼田高校 2年 星野 礼衣
554	やめてみる ペットボトルを使い捨て どうなるのかは分かってないが	群馬県立沼田高校 2年 加藤 基嵩
555	ふられてもあきらめないのまじでだめ 早く次いけ 美化する前に	群馬県立沼田高校 2年 加藤 基嵩
556	二日ぶり朝に聞かれた「ずる休み？」心配してよ頭痛が痛い	群馬県立沼田高校 2年 大島 史彰
557	もうやめてテストに部活模試勉強私のライフはもう既にゼロ	群馬県立沼田高校 2年 笠井 琉雅
558	人生で 初の柔道 初試合 仲間応援で 全戦全勝	群馬県立沼田高校 1年 千明 壮真
559	帰り道 肌立つ夜道 暗けれど 横には友が ありおりはべり	群馬県立沼田高校 2年 関 羚音
560	車窓から また見るのかな 街化粧 雪の絨毯 転ばないかな	群馬県立沼田高校 2年 真下 優
561	谷川の 雪景色こそ 天下一 流るる雪解け 新たな命	群馬県立沼田高校 1年 石原 空透
562	深更の輝やく月光優雅なり 伸びし心の我慰さむる。	群馬県立沼田高校 2年 深澤 幸之助
563	おはようと 純真な声 響かせて 始まる今日と 明るい未来	群馬県立沼田高校 2年 中村 弦永
564	人は言う つらいやばいと 人の前 つらい方々 声には出さず	群馬県立沼田高校 2年 加藤 基嵩
565	バスケット 数やることでうまくなる すべてに言える 量の力	群馬県立沼田高校 2年 加藤 基嵩
566	夜道には危険がひそむ気をつける とくに疲れは油断の元だ	群馬県立沼田高校 2年 加藤 基嵩

- 583 男子校 男限はもう飽きた カップル見て↑憧れ抱く 群馬県立沼田高校 2年 石井 聖
- 582 朝いちで電源おとす その場見て 理由も聞かず没収なぜ 群馬県立沼田高校 2年 石井 聖
- 581 ステージで開始の合図鳴り響く 皆息合わせ奏でる音色 群馬県立沼田高校 2年 根岸 凜太郎
- 580 寒空に一輪の花照らされる それは春待つ一人の勇者 群馬県立沼田高校 2年 根岸 凜太郎
- 579 暑すぎて 外に出るのも 嫌な夏 家の中いて 終わる一日 群馬県立沼田高校 2年 阿部 溪太朗
- 578 消しゴムが日に日に短くなっていく古びた姿に増えるさみしさ 群馬県立沼田高校 2年 深津 慎之助
- 577 秋の空きづけばすぐに星空が輝く姿に心打たれる 群馬県立沼田高校 2年 鈴木 優士
- 576 できごころ街が汚れるポイ捨てはあなたもぼくも笑顔をなくす 群馬県立沼田高校 2年 井上 千尋有
- 575 ふきあれる心のようなおもて表紙 論理国語のはやてのごとく 群馬県立沼田高校 2年 木幡 悠紀
- 574 秋の夜の いみじき寒さ 抗へど 迫り来る冬に 心泣きけむ 群馬県立沼田高校 2年 木幡 悠紀
- 573 青春や 胸高鳴りて 起居するも 何事起きず 我は死にたり 群馬県立沼田高校 2年 木幡 悠紀
- 572 誰が為に 勉学為すと 嘆きける 夢描けずに 死ぬるはうたてし 群馬県立沼田高校 2年 藤川 慎樹
- 571 たきざかを登る途中で桜落ち その横端でバスが追い越す 群馬県立沼田高校 2年 藤川 慎樹
- 584 男子校 男の熱はもう冷めた カップル見て↑憧れ抱く 群馬県立沼田高校 2年 石井 聖
- 585 小夜の部屋液晶見入る虚ろな目 身から出た錆現実逃避 群馬県立沼田高校 2年 小川 博之
- 586 英単語 覚えてもなお forget 入学時から やり直したい 群馬県立沼田高校 2年 生方 凜
- 587 奈良京都 大阪巡る修学旅行 顧問と回る ユニバ最高 群馬県立沼田高校 2年 生方 凜
- 588 秋の風 喉もカラカラ 乾燥で 保湿と水分 かぜの予防 群馬県立沼田高校 2年 阿部 颯晟
- 589 衣替え 冬が近づく 下準備 心の準備も お早めに 群馬県立沼田高校 2年 阿部 颯晟
- 590 紅葉だ マユミにモミジ ハナミズキ どの葉もみんな 薄紅色 群馬県立沼田高校 2年 阿部 颯晟
- 591 考えて 作る短歌 教室で 次の短歌は 何ができるか 群馬県立沼田高校 2年 阿部 颯晟
- 592 少しだけ テスト前日 仮眠とう 目覚めたらもう 午前7時 群馬県立沼田高校 2年 阿部 颯晟
- 593 どうしようちよつと進路やばいかも 不安だろうとゲームスタート 群馬県立沼田高校 2年 櫻井 拓夢
- 594 下校中歩きスマホで捻挫した顧問に言ったら怒号飛ぶ 群馬県立沼田高校 2年 櫻井 拓夢
- 595 いつメンで集める度にスマホ向けカメラを越えてハッピースマイル 群馬県立沼田高校 2年 増田 悠里
- 596 期間外ユニバーサルでいくら聴く体験したいAdoの唱 群馬県立沼田高校 2年 増田 悠里

- 609 あのとへ戻りたくなる人生に 今生きる価値思えなくても
群馬県立沼田高校 2年 山田 幹大
- 608 秋の朝呼ぶと出てくる飼犬が長かった夏終わりがかな
群馬県立沼田高校 2年 都丸 晃磨
- 607 春風に桜が散るは青空にその花びらは季節の終わり
群馬県立沼田高校 2年 松永 湮音
- 606 秋きたる秋桜舞う涼しき日に紅葉の乱れ秋の儂さ。
群馬県立沼田高校 2年 後藤 嘉希
- 605 赤とんぼ恋色に染める秋の空いくと待つ冬の恋
群馬県立沼田高校 2年 江原 大和
- 604 卯三つ時透き通る空に白い息冬支度する朝夕の月
群馬県立沼田高校 2年 江原 大和
- 603 文化祭みんなで作るお化け屋敷ぬめる絆今年も楽しむ
群馬県立沼田高校 2年 金井 一馬
- 602 悔しいな真剣勝負夏の思い出次こそは勝つぞインターハイ
群馬県立沼田高校 2年 金井 一馬
- 601 積もる雪白い世界に変えていく窓から見える人の足跡
群馬県立沼田高校 2年 中澤 涼太
- 600 窓の外冷たき風が吹き荒れて落ち葉が舞う秋の夕暮れ
群馬県立沼田高校 2年 加藤 晴輝
- 599 仲の勢 追いかけて磨く わが剣は 冬の寒をも 切らんほどにて
群馬県立沼田高校 2年 山崎 遥斗
- 598 十と七 我が上渡る 秋の日は 少なき情愛 尽きず変わらぬ
群馬県立沼田高校 2年 山崎 遥斗
- 597 知識とは未来をつなぐ羽根を生む裏切りのない船の面舵
群馬県立沼田高校 2年 増田 悠里
- 622 泣く君に見ているだけの僕だけど愛の深さは限り知られず
群馬県立沼田高校 2年 佐藤 輝
- 621 夜のほたる癒やしの光心を灯す希望の光あたりを灯す
群馬県立沼田高校 2年 武藤 圭汰
- 620 夏の夜に 貴方と行った 花火大会 花火と一緒に 輝く貴方
群馬県立沼田高校 2年 唐澤 光輝
- 619 冬課題 明日明日と 先延ばし もう間に合わない 最後の晚餐
群馬県立沼田高校 2年 唐澤 光輝
- 618 パーカーのチャックに絡まる赤い糸まだ断ち切れない君への想い
群馬県立沼田高校 2年 茂木 健太郎
- 617 冬の朝 寒さで起きて 二度寝する 目覚まし気づかず 電車寝過ぐす
群馬県立沼田高校 2年 高柳 鍊司
- 616 人による 表現の仕方 大きさは 意味も変わるよ 愛というもの
群馬県立沼田高校 2年 原田 鈴芽
- 615 朦朧と錆びつく郷愁息は亡く散々な憂き世で今際の際に
群馬県立沼田高校 2年 松井 颯汰
- 614 スーパーの焼き芋売り場で秋香る止まぬを知らない胸の高鳴り
群馬県立沼田高校 2年 松井 颯汰
- 613 紅葉に沈み無くなる太陽が最後の力で照らし彩る
群馬県立沼田高校 2年 狩野 拓海
- 612 葉の色が秋のおとずれ伝えている気温はいまだに低くはないが
群馬県立沼田高校 2年 中澤 涼
- 611 秋の風静かに吹いて葉を揺らし赤く染まった葉を舞わせる
群馬県立沼田高校 2年 佐々木 幹仁
- 610 谷川の雪解けてきた暑い日に解れるは快樂夏の利根川
群馬県立沼田高校 2年 佐々木 幹仁

- 635 満塁のこの重圧に打ち勝てば一打逆転音が鳴る。
群馬県立沼田高校 2年 生方 琥太郎
- 634 文化祭黄色のタイトで一発芸むなしく響く沈黙とまばらな拍手
群馬県立沼田高校 2年 今井 眞大
- 633 悩んだりさまよい足掻く部活動 鍛錬すれば道見えてくる
群馬県立沼田高校 2年 今井 快吏
- 632 家の中しきりに動くいまわしきてんその姿わずらわしい
群馬県立沼田高校 2年 新木 陽太
- 631 登校中電車で座るといきこんでいざ初まるぞいす取りゲーム。
群馬県立沼田高校 2年 赤澤 理希
- 630 風の音秋がくること示すべき風が冷たく秋の訪れ
群馬県立沼田高校 2年 金井 秀五
- 629 祭り後に皆口ずさむまた来年次来る時は愛する人と
群馬県立沼田高校 2年 朝比奈 龍希
- 628 呼んでいる飛行機雲と夕暮れが家族待つ家もう帰ろうと
群馬県立沼田高校 2年 川越 栞太
- 627 道に散る夏の葉を見ると思い出す地獄のようなマラソンの日々
群馬県立沼田高校 2年 大島 夢雅
- 626 山の水飲んで未来を華やかにすればするほど心清らか
群馬県立沼田高校 2年 金子 舜
- 625 自転車通河岸段丘の四季感じ風をあびつつ今日もペダルふむ
群馬県立沼田高校 2年 星野 平帆
- 624 空見れば心の中も澄み渡るまるで心を見透かすように
群馬県立沼田高校 2年 関 大翔
- 623 音鳴れば心焦りし足音の走れよ走れ我が身に鞭打つ
群馬県立沼田高校 2年 千明 玲雄
- 636 高校生 勉強ばかりで 忙しい 居眠りだけでも許してください。
群馬県立沼田高校 2年 生方 小鉄
- 637 文化祭いざ始まるとあっけなく頭に響くにぎやかな声
群馬県立沼田高校 2年 生方 冬麻
- 638 登下校 会釈で始まり終わる毎日を 大切に 過ごしたり
群馬県立沼田高校 2年 生方 佑弥
- 639 辛くとも家族に尽くす母に我 休めと言うが聞き流す母
群馬県立沼田高校 2年 大澤 陽心
- 640 部活動経験した事無駄ならず それらを次へ生かせるならば
群馬県立沼田高校 2年 小川 煌太
- 641 夏の山 みんなが寝てる 夜三時 空の宝石 独り占めしよう
群馬県立沼田高校 2年 熊切 叶汰
- 642 男子校女子との出会いはないけれどいつかは卒業これも青春
群馬県立沼田高校 2年 倉田 智貴
- 643 「好きです」と言えずに七年経っていて気づけばもうすぐ受験生
群馬県立沼田高校 2年 倉田 智貴
- 644 期末前勉強前の心移り勉強中さへ上の空
群馬県立沼田高校 2年 島田 倫太郎
- 645 選手権 長い笛が 鳴り響く ベスト4へは 一步届かず
群馬県立沼田高校 2年 砂山 燈也
- 646 君の声変わらぬ笑顔夢想して待ちぼうけする午前八時
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也
- 647 過ぎる日と終わらぬ課題焦り出す7月の終わり蟬の声やまず
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也
- 648 想い人永遠に届かぬこの想いと10センチが異様に遠い
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也

- 661 白球を追い続けてたあの頃の過ぎゆく時間は何に変わるか
群馬県立沼田高校 2年 藤井 來夢
- 662 今年もか 女子といたかった クリスマス 来年こそはと 毎年思う
群馬県立沼田高校 2年 古川 伊武紀
- 663 山麓に瞬く光星空へ近づかんと頂を見る
群馬県立沼田高校 2年 高橋 翔太
- 664 単語帳 毎日開いて 勉強し ポロポロになると 努力の証拠
群馬県立沼田高校 2年 宮内 奏友
- 665 休日 昼までねてて 罪悪感 ただ友人と話し 軽くなつていく
群馬県立沼田高校 2年 宮内 奏友
- 666 春と秋 きれいな景色で 感動し 花粉の合唱でも 涙がでる
群馬県立沼田高校 2年 宮内 奏友
- 667 英単語 テストもあるし 難しい 先生も言う 朝は嫌
群馬県立沼田高校 2年 宮野入 廣一
- 668 催眠術 別に信じて いないけど マラソン後の 物理は気絶
群馬県立沼田高校 2年 宮野入 廣一
- 669 高身長 こわいものなしに 見えるけど 今ではこわい ドアの上のほう
群馬県立沼田高校 2年 宮野入 廣一
- 670 帰りたいたい 毎日願う 昼休み 結局楽しむ 学校生活
群馬県立沼田高校 2年 宮野入 廣一
- 671 祖母に会いかつてを思うに夏景色なる散りゆく夏椿を浜辺で眺めたり
群馬県立沼田高校 2年 茂木 秀馬
- 672 木が踊り校舎から見る赤城山は どの植物よりも大きく立つ
群馬県立沼田高校 2年 山崎 伶音
- 673 朝起きて 家を出て ため息ついて 暗い朝日に 息が輝く
群馬県立沼田高校 2年 吉野 憲汰
- 674 年上を好きになることの厳しさに 気づいた僕の 16の夏
群馬県立沼田高校 2年 吉野 憲汰
- 649 明くる日を思い描いて我武者羅に勉強する意味誰もわからず
群馬県立沼田高校 2年 関根 竜也
- 650 目を覚ませ 焦る焦るなバス停は 残り少ない曲ムダに長い道
群馬県立沼田高校 2年 高橋 巧
- 651 笛が鳴り 涙を流す 先輩を 横目で感じる 自分の弱さ
群馬県立沼田高校 2年 瀧澤 奏心
- 652 日曜日 ぐうたらすると すぐ終わる 明日になるなど 憂鬱な夜
群馬県立沼田高校 2年 角田 快理
- 653 つらいときいつも思い出す仲間の声 自分を鼓舞して襷を結ぐ
群馬県立沼田高校 2年 外山 希生
- 654 足を出す苦しくたって前を向く あのときの自分に報いるために
群馬県立沼田高校 2年 外山 希生
- 655 ゴールする毎回感じる爽快感この楽しさが忘れられない
群馬県立沼田高校 2年 外山 希生
- 656 影が落ちるあの日の約束果たすため 潮香る浜で待つ長い夏
群馬県立沼田高校 2年 中澤 政義
- 657 十三夜 雲に隠れる 栗名月 母と妹 皆まじまじと
群馬県立沼田高校 2年 樋口 悠太
- 658 寒稽古凍てつく足に白い息あか帰りたいもう帰りたい
群馬県立沼田高校 2年 福田 悠大
- 659 今はまだ わかりたくない青春の儂い理由 過ぎる日の中
群馬県立沼田高校 2年 藤井 裕馬
- 660 661 白球を追い続けてたあの頃の過ぎゆく時間は何に変わるか
群馬県立沼田高校 2年 藤井 來夢

- 687 美しき西毛の森 四万川の碧水誘う 異国情緒
群馬県立沼田高校 2年 加藤 大輝
- 686 暑い日に皆で走ったランメニューもう戻れない夏の青春
群馬県立沼田高校 2年 片桐 伊知朗
- 685 流されて形を変える原石よ宝か塵か己で決めまし
群馬県立沼田高校 2年 岡田 虎太郎
- 684 テトリスで上手くつむむことできなくてすきまだらけ自分のよう
群馬県立沼田高校 2年 大竹 幸喜
- 683 楽しき日過ぎ去ってゆく友と時間 まだやり足りずまた来週
群馬県立沼田高校 2年 大嶋 悠
- 682 流水に流され着いた新天地なつかしきかな源流の地よ
群馬県立沼田高校 2年 今井 治翔
- 681 桜散る小鳥が鳴き出し空見れば 旅立ち始める夏の訪れ
群馬県立沼田高校 2年 井上 空大
- 680 冬なれば辺り広がる銀世界 まだまだ降り散る雪の結晶
群馬県立沼田高校 2年 井上 空大
- 679 友の声夕日にしずむ帰り道 太陽と共に響き出す朝
群馬県立沼田高校 2年 石井 大翔
- 678 夏の快晴響く音がスタンドでこたまし頭わに夏の訪れ頂点目指す球児の夏
群馬県立沼田高校 2年 石井 晃太
- 677 白球を追い全力で駆ける球児の姿 球場で決まる勝敗奇跡を起こす本塁打
群馬県立沼田高校 2年 石井 晃太
- 676 太陽の絶えない光に照らされる 我らの人生続くときまで
群馬県立沼田高校 2年 新井 虎太郎
- 675 下校路の空に引かれた白線を たどって進む分枝した道
群馬県立沼田高校 2年 青木 裕作
- 688 暑かった今年の夏ももうおわり朝の寒さに冬を感じる
群馬県立沼田高校 2年 金崎 壮吾
- 689 今日こそは遊びまくると意気込むが 動けず悔やむ夏の休日
群馬県立沼田高校 2年 河野 辰海
- 690 四日三日と迫る旅行に踊る心は純粹無垢な子どものよう
群馬県立沼田高校 2年 小林 千惺
- 691 闇に咲く瞬間に散るあの花は、心を侵す初恋のよう
群馬県立沼田高校 2年 小林 千惺
- 692 自転車で降りし坂道その風をほほで受けとめ思いふける
群馬県立沼田高校 2年 七五三木 玲音
- 693 先輩の偉大さ感じた秋の終わり これから始まるボクらの物語
群馬県立沼田高校 2年 関 優人
- 694 冬休み部活のない日は貴重な日 なのに動けないコタツのせい
群馬県立沼田高校 2年 関 優人
- 695 全開の窓の遠くの雨曇と 夕立で濡れた床を見た寝起きの自分
群馬県立沼田高校 2年 武井 奏樹
- 696 朝早く弁当作る台所 今日憂鬱な一日が始まる
群馬県立沼田高校 2年 谷川 陽紀
- 697 寒い日の自転車こぐ帰り道いつそう感じる家のあたたかさ
群馬県立沼田高校 2年 津久井 耀
- 698 友達のインスタのぞきからかうが 通知が来ない自分のスマホは
群馬県立沼田高校 2年 藤井 清丸
- 699 白来いと神に願ひし麻雀の 願ひ破れる相手のロンに
群馬県立沼田高校 2年 藤井 清丸
- 700 夕焼けの照る日のような吾子の頬 霜降る冬も敵わない笑み
群馬県立沼田高校 2年 本多 真那士

- 701 早朝に肌を突き刺すからっ風 自転車で駆けるいつもの風景
群馬県立沼田高校 2年 増田 智弥
- 702 過ぎ去った 秋分の日が 気が付けば 朝起きられない 今年も冬が
群馬県立沼田高校 2年 増田 智弥
- 703 夏が過ぎ 秋が始まり 服を変え 木たちもみんな ころもがえする
塩尻市立広陵中学校 2年 保科 奏弥
- 704 久びさの 家族旅行 楽しいな でもガソリンが なくなりあせる
塩尻市立広陵中学校 2年 保科 奏弥
- 705 くもり空 ふるならふれと 願う君 涼しいけれど 私もきらい
塩尻市立広陵中学校 2年 大野 心
- 706 今年の 夏は雨が 多すぎる 七月八月 けっこう降ってる
塩尻市立広陵中学校 2年 竹下 裕斗
- 707 帰り道暗くなったな最近はいとなつかしき夏休みの日々
塩尻市立広陵中学校 2年 酒井 太希
- 708 前までは 暑苦しいと 感じてた あっという間に え?もう九月?
塩尻市立広陵中学校 2年 窪田 桃子
- 709 休みの日みんなであそびたのしいな自宅について勉強始め
塩尻市立広陵中学校 3年 竹下 柊汰
- 710 東京 空気おいしい 行きたいな 東京きれい よるのやけい
塩尻市立広陵中学校 3年 塚原 陽葵
- 711 夏休み はしゃいで遊んだ でも僕は 忘れちゃいけない 受験生だよ
塩尻市立広陵中学校 3年 百瀬 麗王
- 712 最近の 給食にでる とうもろこし 僕にとっては 強敵なんだ
塩尻市立広陵中学校 3年 竹折 颯真
- 713 小石けり誰もが一回やるだろう結局家までけり続けられず
塩尻市立広陵中学校 3年 安江 憲伸
- 714 新月は 昔の私を かくしてくれる 明日の私は 前とはちがう
塩尻市立広陵中学校 3年 平島 彩桜
- 715 息をつく 君が帰った あとの部屋 あついほっぺは まださめない
塩尻市立広陵中学校 3年 平島 彩桜
- 716 から風が 肌を突き刺す 冬の日 ふと空見ると 初雪の跡
塩尻市立広陵中学校 3年 中野 正太
- 717 落ち葉舞う 紅葉トンネル くぐり抜け 僕らを待つは 赤い絶景
塩尻市立広陵中学校 3年 中野 正太
- 718 音がなり 暗くなってく 空の色 雨雲たちの 大航海だ
塩尻市立広陵中学校 3年 齋藤 煌仁
- 719 10円パンフリフリポテトやきそば、おいしかったよまた食べたいな
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 720 暑いからアイスを食べる帰ってから友達とあそぶうんどうをするよ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 721 いいゆめを見たサンタクロースにあったゆめを
塩尻市立塩尻東小学校 4年 秋山 杏莉
- 722 あさおきてごはんたべてはみがきだじゅんびをしたらがっこうへ行く
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 723 おでむかえ犬がはしってやってくる手をなめてきてちよっときたない
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 724 いえのかわさわがにがくるきしのうえかえって行くと足あとだらけ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 725 ペットでねきんぎよがはねて水びたしそれをなめちゃう犬できなかった
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野
- 726 おまつりでたくさん出店ならんでねのこったお金なにできるかな
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 原野

- 739 笑ってる そんな人を見る 時にはね 私もなぜか 笑ってしまおうよ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 738 夕やけが 山と重なる しゅんかんは きれいな時間 あつという間だ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 737 屋根の下 ゆらりとゆれた 風りんが 私の心を くすぐってくる
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 736 金魚ばち 優がに泳ぐ 金魚さん 私も一緒に 泳いでみたいな
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 735 海の中 目をあげるとね 青の世界 ちがう世界に 迷いこんだよ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈
- 734 あの空に 私はいつか 行ってみたい でもそんなこと 夢のまた夢だー
塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈
- 733 私はね つかあなたに なってみたい それが私の 一つのねがい
塩尻市立塩尻東小学校 5年 内川 仁奈
- 732 おつきさまよるにみるときれいだなほしがキラキラだいすきなんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 田中 未柚
- 731 すずしいな木の下や家の中あついのはずごくにがてでだいっきらい
塩尻市立塩尻東小学校 4年 堀田 湖花
- 730 きれいだななぜにゆれるおはながねいっばいゆれてまうはなびらを
塩尻市立塩尻東小学校 4年 堀田 湖花
- 729 教かはね 算数とかは 頭使う ミスもあるけど しょうがないんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 池田 陽紀
- 728 きせつはね、四つのしゅるい 知っている あれはしらない ひみつなんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 池田 陽紀
- 727 ふきのとう 冬にはかくれて 春には出る かくれんぼみたい 楽しそうだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 池田 陽紀
- 740 毎日が 楽しいわけでは ないんだよ たまには苦しい 時もあるんだ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 笠原 優花
- 741 たなばたに りゅうせいぐん おねがいを かなえてくれるりゅうせいぐん
塩尻市立塩尻東小学校 5年 福田 琉人
- 742 あれれれれ どこいったのだ あの雲は さっきいたのに どこにかくれた
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 743 流れてく 川と時がさ 同時にね 川がはやいと 時もはやいな
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 744 なんだろう 何考える 頭の中で でも考えた 何考えるかを
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 745 いったてみよ 迷ったら ぼうけんの はじまりだよね ワクワクドキドキ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 746 泣いてるよ 外も泣いてる なんでだろう 自分も泣こう うそ泣きだけど
塩尻市立塩尻東小学校 6年 松澤 結愛
- 747 毎日が 一期一会で いっしゅんで 同じ日なんて 一度もない
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 莓果
- 748 悲しいと空っぽになる心がさ夜空にさいてまた明日もっ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 莓果
- 749 好きなこと今やらないとできないよ後かいてもしらないよ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 莓果
- 750 苦しいなせきはでてるし胸もいたい病院行きたい家に帰りたい
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 莓果
- 751 しょうらいのことなんて誰にも分からないかってに決めるなかってに語るな
塩尻市立塩尻東小学校 6年 小澤 莓果
- 752 静かだなまどからのぞく星たちが静かにひっそりおしゃべりしてる
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛

- 753 つかれたな学校終わりの母さんと楽しく話すいつもの楽しみ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 754 なやみ事考えすぎて頭いたいふと耳に入るピアノの音色
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 755 朝起きた7時過てるちこくする寒さに勝てずふとんくるまる
塩尻市立塩尻東小学校 6年 白木 千愛
- 756 好きなんて言葉は一生出ないからトワイライトの君へおやすみ
神奈川県立光陵高等学校 2年 池上 真央
- 757 授業中ピアスが光る赤べこの得意科目は体育だとか
神奈川県立光陵高等学校 2年 高間 結
- 758 指先に蝶をもひとつ止まらせて君の心を捕らえる準備
神奈川県立光陵高等学校 2年 高間 結
- 759 君だから気づかないでしょダイナー時目元のきゆるんの乙女の秘密
神奈川県立光陵高等学校 2年 高間 結
- 760 尸と牛のあいだにみいつけた羽を広げた小さな秋を
神奈川県立光陵高等学校 2年 池野 弘葉
- 761 卒業は別れじゃあない学校を帰る場所へと変える、それだけ
神奈川県立光陵高等学校 2年 池野 弘葉
- 762 手のひらで太陽を遮ってみて小さい影の中で笑った
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 763 夢というボタンをつなぐためのビラ黒ひげ禁止のサンタ求人
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 764 光あるところに影があることを忘れたくって人は強がる
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 765 大切な人の背中を押したくてドアの把手の丸みに做う
神奈川県立光陵高等学校 1年 鳥野 空音
- 766 大人しくカブトクラゲになるのです従うことを学び続けて
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 767 「またね」って別れた後に粉雪が降るからあなたに会いたくなかった
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 768 言葉として残せばきつと蘇る授業終わりの小さなあくび
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 769 樹形図をどれだけ追っても君という答えにたどりついてまた春
神奈川県立光陵高等学校 1年 猪野田 涼奈
- 770 右見ても左を見ても世の中はカオスと書いて秩序と読んだ
神奈川県立光陵高等学校 1年 上田 朱雀
- 771 カミサマが与えてくれた物の数他人と比べてしまう八月
神奈川県立光陵高等学校 1年 上田 朱雀
- 772 困難もみんな越えてく青春の映画みたいに生きていこうや
神奈川県立光陵高等学校 1年 佐野 晃太
- 773 一瞬で小江戸を見れば僕なんてちっぽけなんだと思えたら晴れ
神奈川県立光陵高等学校 1年 洲崎 大知
- 774 僕たちはさやのまんまの大豆たち副都心線に揺られて揺られて
神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生
- 775 校舎裏あなたはまるで気まぐれな青いかけらで、嘘ですけどね
神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生
- 776 反対のホームで目合わせLINEして電車が君を消し去ってった
神奈川県立光陵高等学校 1年 山本 未生
- 777 ふたりきりで初めていったまねきねこ声枯れるまで歌う日曜
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 植原 愛佳
- 778 トランポリンの張力を夏の水よ持て足の着水するまでが空
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 植原 愛佳

- 779 この冬に生れて消えゆく君をみる日毎にしょげてゆく雪達磨
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅
- 780 蛙の子、鷹の子受験会場の僕はまだ蝌蚪、隣は鳶
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅
- 781 いつまでも上手にできない 抹茶碗の最後を「じゅっ」と飲み干しており
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 今井 沙羅
- 782 理想見てあなたに恋する昼下がり読書にねむくなっている春
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 明音
- 783 プリントを日に翳しみてゆらゆらとあの雪の日を思い出したい
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 明音
- 784 さよならを底に押し込み蓋をする心Ⅱパンドラの箱
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 健太郎
- 785 エモいとはエモーショナルと異なりて閃光に眼を閉じたる心
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 高崎 健太郎
- 786 傘を巻き待っている君に黄色い線だけを辿って逢う上野駅
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 園田 愛美
- 787 マーチンの靴を待っている友の横私はナイキの靴を待っている
群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 園田 愛美
- 788 梅コーラ3番線の自販機にゴトンと落ちる時を待っている
群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環
- 789 切るまでは私と同じものだった電圧下がる三月の午後
群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環
- 790 ニンゲンの船がもうすぐやって来る急げ急げとタコの早起き
群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環
- 791 夏休み家族旅行で海に行く水平線がきれいだったな
埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年 柴崎 亮多
- 792 久しぶり地域の祭り雨で流れ抽選会でくじひくかかり
埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年 柴崎 亮多
- 793 墓参り祖母と一緒に徒歩で行く夏の暑さで疲れが出たな
埼玉県深谷市立藤沢小学校 5年 柴崎 亮多
- 794 秋風と朽葉のドレスの貴婦人がくるくる回る回り舞わされ
東京都普遍土学園高等学校 1年 米倉 望
- 795 文化祭のシフトじゃんじゃんすっぱかす俺たちきつとバイトは無理だ
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 796 蟻は這う地球を回すごとく這う こまごめぴっぴこまごめぴっぴ
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 797 進路どうしようか紙とにらめっこ とりあえず寝てとりあえずの朝
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 798 教室の隅に置かれた本棚のような謙虚さ僕にはなくて
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 799 化粧する姉を鏡越しに見つつ月の所在を感じていた日
愛知県名古屋高等学校 1年 福田 匠翔
- 800 唇を尖らせながら頬張った辛味チキンのほのかな甘さ
三重県高田中学校 3年 櫻井 つむぎ
- 801 唇の油舐めれば君からの視線が少し気になっている
三重県高田中学校 3年 櫻井 つむぎ
- 802 助手席で母に進路話す時ラジオの声と混じらせてみる
東京学館新潟高等学校 2年 鈴木 龍成
- 803 五百円机に一枚置かれてた母の早番知る水曜日
東京学館新潟高等学校 2年 鈴木 龍成
- 804 珍しく母がエナドリ買う時は明日は夜勤と知らせる合図
東京学館新潟高等学校 2年 鈴木 龍成

806	805
日曜の朝から響く効果音変身ベルトは父のアラーム	白色に染まった眉毛で帰宅する父見て今日の雪量知る
東京学館新潟高等学校 2年	東京学館新潟高等学校 2年
鈴木 龍成	鈴木 龍成

第七回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和6年（2024）3月発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379 | 1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321 | 1

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話0278（25）5025

令和5年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第7回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和6年(2024)3月3日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

協力 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・沼田エフエム放送株式会社・
関東新聞販売(株)マイタウンたにがわ・(一財)三国路与謝野
晶子紀行文学館・三成社株式会社

